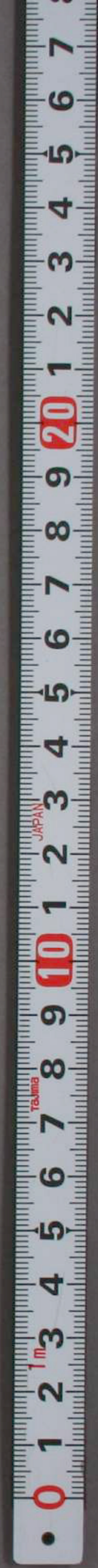


ル 4  
3540  
4





門 凡 4  
號 3540  
卷 4

らんが  
しんが  
しんが

海  
元  
長

河内名所圖會卷之四目錄

志紀郡

當宗神社

允恭天皇陵

道明尼寺

天満宮

本堂

妙善堂

天穗日命社

鎮守

三社神祠

太子堂

木槌樹

二軒杉

龍池

八社神祠

土師竈址

龍池

龍池

八社神祠

古礎

八社神祠

龍池

八社神祠

市邊墓

孝女衣縫墓

黒田神社

志疑神社

伴林氏神社

舟橋水仙花

小山團扇

三好城趾

新大和川

築留

相原清水

木本干瓢

家原慶寺

丹南郡

葛井寺

影向石

不動堂

菩薩堂

葛井

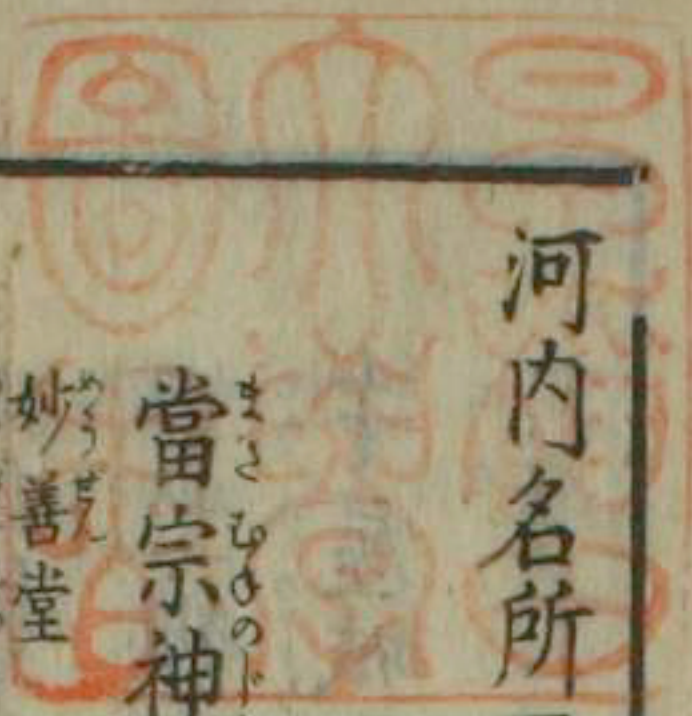
業千第

葛井寺戰場

長野神社

沙門慶俊

十力跡



昭和十六年一月十一日寄  
尼野貴英氏贈



満願寺

仲哀天皇陵

仁賢天皇陵

野中寺

津堂 観音堂  
鎮守 瑪瑙三石

地藏堂  
古礎

經藏  
太子關御井  
揚枝井

墳土阪

野中神祠

羽曳山 同野

辛國神社

大津神社

標本神社

丹比野

丹比神社

菅生神社

荒陵

河内鍋

日高臺古蹟 繪荷

油淵

大野關趾

狹山神社

狹山堤神社

名産蓴菜

東餘下川

西餘下川

狹山池

丹北郡

雄略天皇陵

忠臣隼人墓

阿保親王故墟

親王池

來目皇子墳

天滿宮

柴籬宮

廣庭神祠

田坐神社

酒屋神社

川色橋

樟本神社

守屋城趾

志紀長吉神社

瓜破

中臣須牟地神社

阿麻美許曾神社

布忍莊

布忍川

河四ノ壹

八上郡

丹比行宮

金岡故居

金岡神祠

金岡淵

須牟地神社

名産蘆

澁川郡

澁川神社

龍華寺古蹟

跡部神社

真觀寺

龜井

勝軍寺

本堂 觀音堂  
馬蹄石 額

神妙椽 鎮守

什寶

守屋墳

守屋頭濯池

顯證寺 蓮如松  
合月亭

鱗角堂

久寶寺城墟

許麻神社

觀音院

伊賀々川

龍眼泉

横野神社

横野堤

都留美神社

若江郡

弓削行宮

弓削神社

弓削河原

都塚

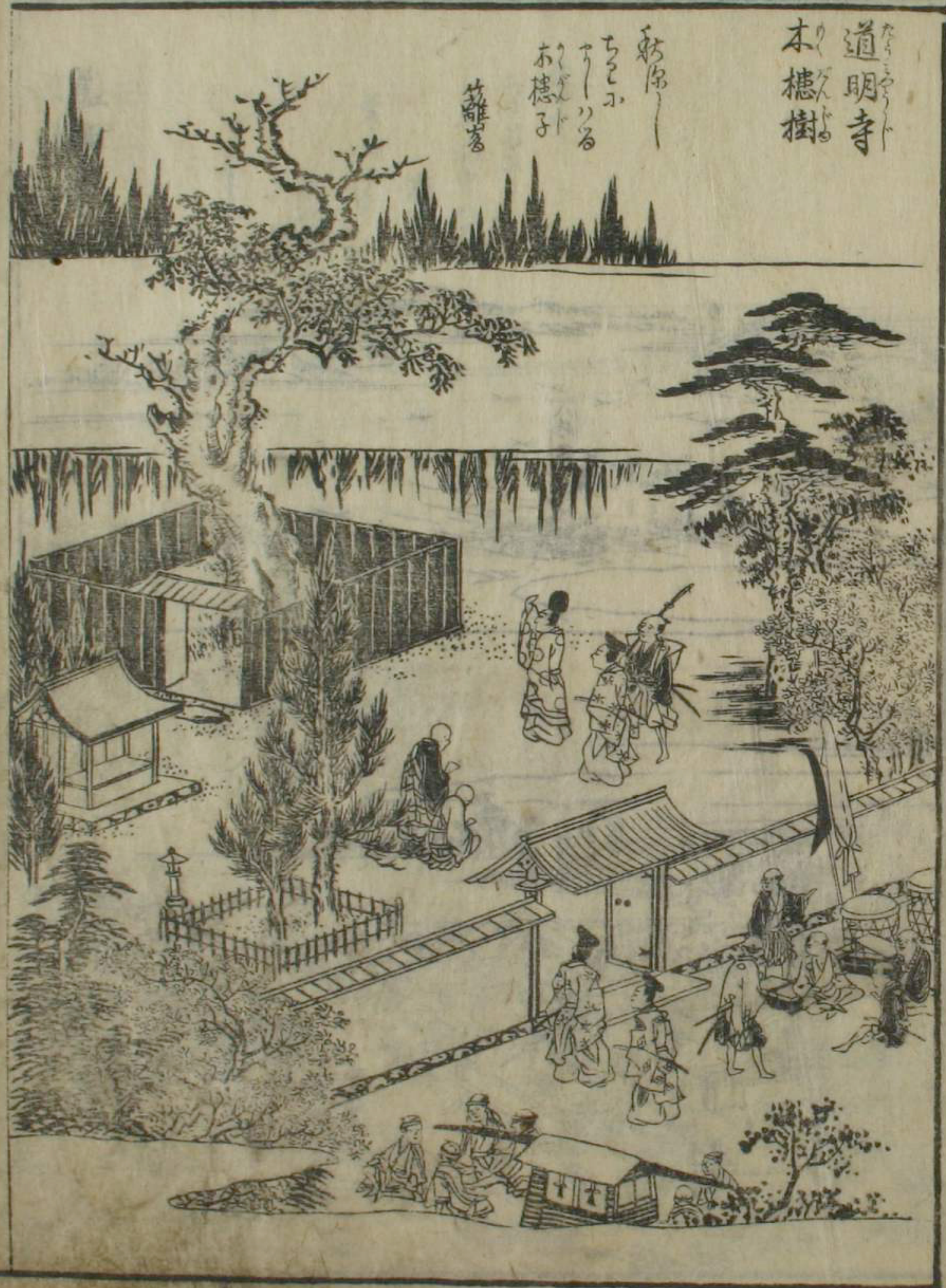
都留美島神社

八尾木鷲

明川

高松塚





由義宮  
 玄寶僧都址  
 稻魔堂  
 鐘堂  
 栗栖神社  
 若江城墟  
 彌刀神社  
 山口重信墓  
 鴨高田神社

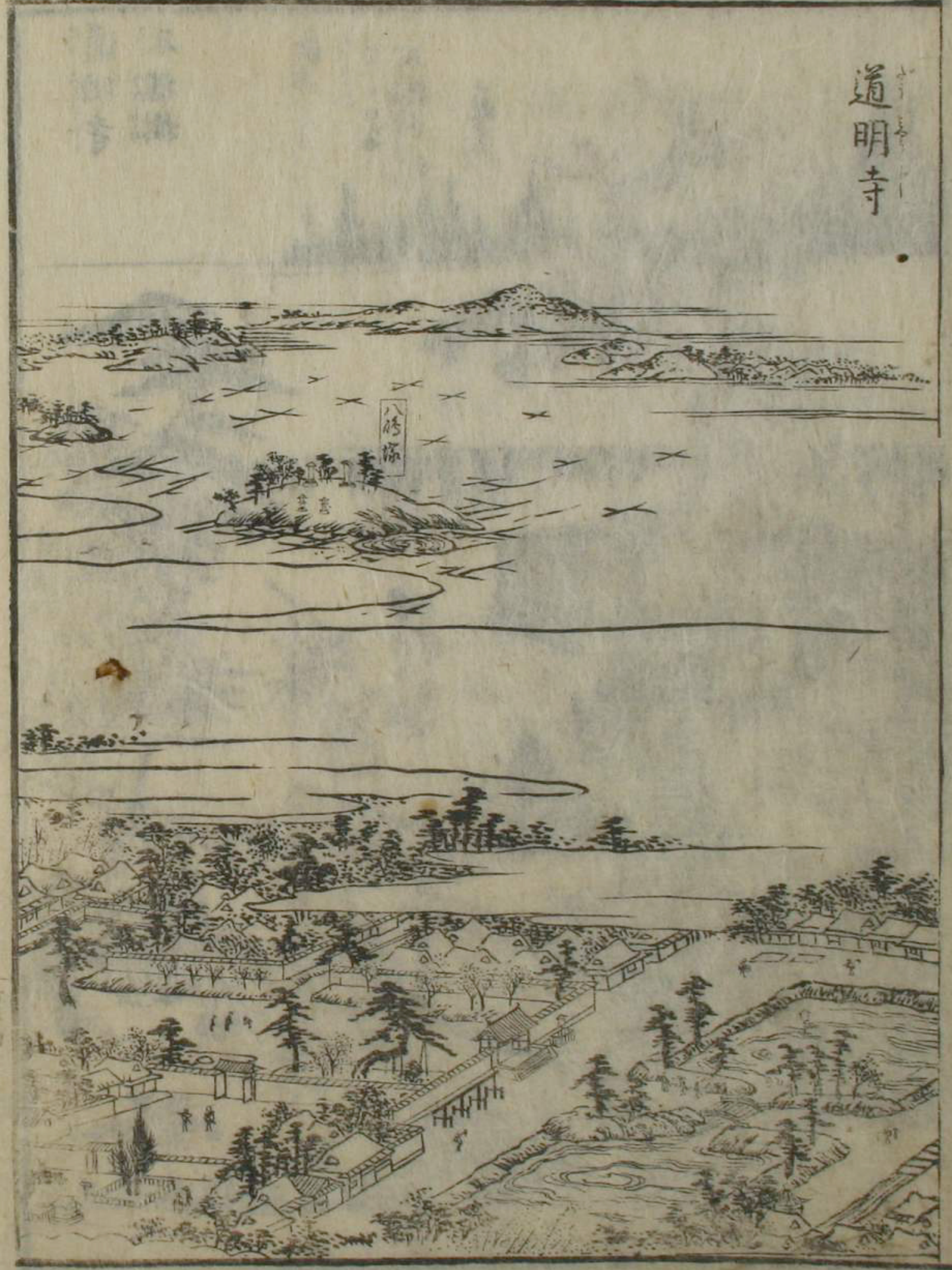
額  
 藤堂家戦死碑  
 長栖神社  
 鏡神社  
 川俣神社  
 冢額  
 石川丈山  
 羅山子  
 雷神石

長瀬川  
 常光寺  
 大信寺  
 玉串川  
 加津良神社  
 宇波神社  
 楢葉里  
 本堂  
 阿弥堂  
 激風呂  
 舍利堂  
 成思庵

坂合神社  
 石田神社  
 木村重成墓  
 仲村神社



道明寺



河内

新古今

ふる君ふ  
色はやいせり  
梅の花  
雪のこり  
つたて  
志のたん  
昔賜を以て







河田



志紀郡 東と安曇郡の界と限り西と丹波郡の界と限り南と吉市丹波郡の界と限り北と淡路郡の界と限り

當宗神社

當宗神社 並に大月次新嘗延喜式出 譽田村の北王水所

三代實錄云

紀郡當宗神祭幣帛使國司一人專當其事並

用國正統永為恒例

公事根源云 當宗系上酒日 是と河内國小幡子神社非

年日使の杜平當宗の祖なり獨の使ぬ社

宗氏形に仁み四月十四日小幡子社

淺深抄云 寬平法皇御外祖母氏神在河内國

所謂當宗社也仍自仁和五年被祭之或説云

當宗氏新撰姓録云當宗忌寸出自後漢獻帝

四世孫山陽公之後也

允恭天皇陵

允恭天皇陵 澤田村あり 惠我長野北陵也 葬之陵の畔に小塚

村あり 其村古室村の管內あり

日本紀云 雄朝津間稚子宿禰天皇統瑞滿別天

皇及同母身也治世四十二年新羅王到筑紫

大艘泊難津八上聞天皇崩張植紫

樂器自難波至京或哭泣或歌舞參會於

宮也 四十二年冬十月葬天皇於河内長野原

道明尼寺

道明尼寺 土階野にあり 土信通明新村と云

天満宮

天満宮 御自他現存の神祇宮あり 一教小津製他世小荒本末

傳云萱丞相筑紫へ左遷の時道明寺小

在と伯母津奉の許へ立寄りせり云

あけほりふ成ゆと云

寺説曰 濟神説

身婆社別裳憂計連身乃音之無羅牟里濃曉裳蛾葉

至今邑人忌畜雞

鳥井額

鳥井額 監額正一位大政大威徳天神と書凡

實鏡寺官理豊徳嚴皇女御筆

幣殿額

幣殿額 監額天満大自在天神と書凡

妙法院宮亮然法親王御筆

十一面觀世音

十一面觀世音 辛堂小安並凡菅神清自他長三尺許寺記云

内一乃三體して彫刻志あり

試觀音

試觀音 長三尺許並相右の大悲の像彫刻志あり 以前津試小

釋迦佛 辛堂中央小安並凡立像長三尺許

覺壽尼像

覺壽尼像 辛堂小安並凡菅神清自他長三尺許寺記云

切少より出蓋の志願あり 尚寺旧名と云

号一は例ふより今に至りて客の息女坊中不止位あり

固形りは例ふより今に至りて客の息女坊中不止位あり



本堂額

擬額通明寺と書凡  
寶鏡寺宮理豐比丘尼淨筆

藥師堂

本堂の東側あり 某降佛を豐を圖政所の淨念持佛  
當寺へ寄附

太子堂

聖徳太子二歳乳又十六歳の像と安凡  
俱小佛工定朝の他

妙善堂

本堂の西傍あり  
延命菩薩あり

天徳日命社

本堂の西あり 菅家の祖神なり 牛頭天王 藥利  
賽女狐傳せま街 河内志云天夷鳥 今神祠天安

領守

紅梅庵 老堂祠 白山 善女龍王 辨財天  
愛宕権現 多賀 稻荷等と多々あり

三社神祠

本社より 寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

忽致

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

又

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

持

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

講堂

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

所

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

の

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

聖徳太子

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

本徳靈樹

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

二本

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

硯水

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

土師八島祠

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

土師竈跡

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

龍池

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

白土支祠

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

土師八島家

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

當社

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

七車

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり

勝利を得

寺証云元孝八年菅公神跡四十の沖にた  
満寺ふあり一夏ぬ旬の間ふ五社大葉経を書寫しあり



天皇紀三格式奉ふ六海洗を禁ざりて其代中して埴土以て  
菴偶人を製し後世の法則とす 天皇野見宿禰が才智  
功と賞とて登見公改く土師氏を姓公賜ふ日本書紀 殿后 推古天皇の  
沖願より上宮を子佛圖を建營し終へ時後高土師八幡連が家  
と捨て移令ふしこれを道明寺と名附たり此八幡を我朝も少  
今攝公親ひ初しとて其聲妙きなりて鬼神も感とるは之故乃  
上ふ衆く異形の者ありて俱ふ奇ふ八島いぬりて之を此を乳人  
とて夜更人移りて時の調ふ公令く祝ひた其曲ゆ云  
わが宿のつらふのつら聲をよめを多しふあのをよめこれごと  
其者聲の蕭しんを愛相の者感ふ堪らふや延奇ふ  
あふ北東南ふとあ所夏火星豊さゆふとよりものなとせと  
あ被成りて延しとて三反祝く都波の旁へ飛去ぬを子の別号と豊邑  
やつと即其勢を奏しとて夏火星とて愛感星とて南の方

栖く國土公守る星形りとて其意ゆふ傳は寺ふ菅巫相の沖綾君覺  
妻比丘尼在のいしうは巫相も時々ふ来駕し終へ昌泰四年此妻  
ゆらりむた詔ありとてささく人の沖身成ゆひ沖伯母沖茶ふ留別を  
沖野願ありて統案へ沖遷り有く三とせの後薨沖ましとて  
五十五年の後 村上高天曆九年ふ京降北野ふ神威嚴形ゆ平  
ゆりて珍瓏ゆ宮殿を營と菅野大政大臣天満大自在天神宮ゆ  
詔しと奉幣ある其頃道明寺ふと方三所ゆ杜乃中ふ社檀ゆ  
建た右ふ梅を植くと天満宮ゆ崇ふたふいふゆへと伽藍巍々  
とて巖重とて土降村の外ふ編葉美ゆの二村も寺存成  
しと元龜の頃古市高屋城兵乱の時没ぬせられ冠大ふ羅寺  
一時ふ燈とる文正年中官より命ありて再修りたゆふ  
神徳を新しとて陰晴風爆ゆ諸人間断か  
毎歲二月廿日をも令式とて遠近詣りて群集し 爰に汝ヲ記しとて  
ゆとゆの沖野河内國ゆ立寄ゆせゆゆ一奉りて書ゆゆゆゆゆ





射をてしは射しむ又  
 韓信の化まるい高祖陣を征  
 する時中央官の遠近なるも  
 潜確類者云去の風下より  
 しく上小



三本の同  
 紙を  
 送る風  
 小舟  
 てこれ  
 と揚る  
 こは  
 いのち  
 とも古  
 唐書の  
 田悦傳  
 紙を  
 凡考と  
 送るも  
 石橋を  
 上る音







惟岳降靈 大闡儒風 懿行可摸 惟誠惟忠  
五教戶到 文化日隆 台曜慶和 萬物斯從  
夷險一如 天鑒空 封祠千載 比德青松  
神威如在 拜趨仰宗

安永四年歲次乙未十二月六日

○道明寺神寶

八葉御鏡 勅封此神 澆々 天滿宮神 神體方生昔 花園院神宇  
西林寺の鏡阿上人導佛 天滿宮神 傳法灌頂あり 時當五百  
道明寺に八葉鏡を我 是鏡阿上人 勅封を下りて 昔  
向人へ一葉鏡を 因是鏡阿上人 勅封を下りて 昔  
近幸享保十二年 靈元院事 中御門院帝 勅封の時 加封あり  
天滿宮揚枝神影 菅神八葉鏡 天滿宮神 勅封の時 加封あり  
御硯 菅神四十葉の神時 佛經 弘法 寫り 白山橋 菅神の友 神現  
阿字鏡 寶劍 二品 菅神 仁和二年 又一夏 弘法 菅神 小於  
神 阿字鏡を 菅神 仁和二年 又一夏 弘法 菅神 小於  
般若心經 阿彌陀經 二徑 偈 紙 寶劍 賜  
石帶 一角笏 櫛笏 菅神 寫り 白山橋 菅神の友 神現

五股鈴 小刀劍 柄 鳥 犀 角  
此六品 菅公 慶中 の後 神 遺 命 云 々 乃 ち 籠 案 云 々 菅 公 慶 中 一 年 久 々 一 日 弘 法 一 日 弘 法 一 日 弘 法

瑠璃壺 龍女現 菅公 慶中 一 年 久 々 一 日 弘 法 一 日 弘 法 一 日 弘 法

佛舍利 五粒 五粒 菅公 慶中 一 年 久 々 一 日 弘 法 一 日 弘 法 一 日 弘 法

名産捕 通明寺 菅公 慶中 一 年 久 々 一 日 弘 法 一 日 弘 法 一 日 弘 法

行足羽川 菅公 慶中 一 年 久 々 一 日 弘 法 一 日 弘 法 一 日 弘 法

見河内大橋 獨去娘 子歌 一首 并 短 歌  
數十引 獨去兒 爾屋 戸借 申 尾 之 頭 爾 家 有 首  
心悲 久 獨 去 兒 爾 屋 戸 借 申 尾 之 頭 爾 家 有 首

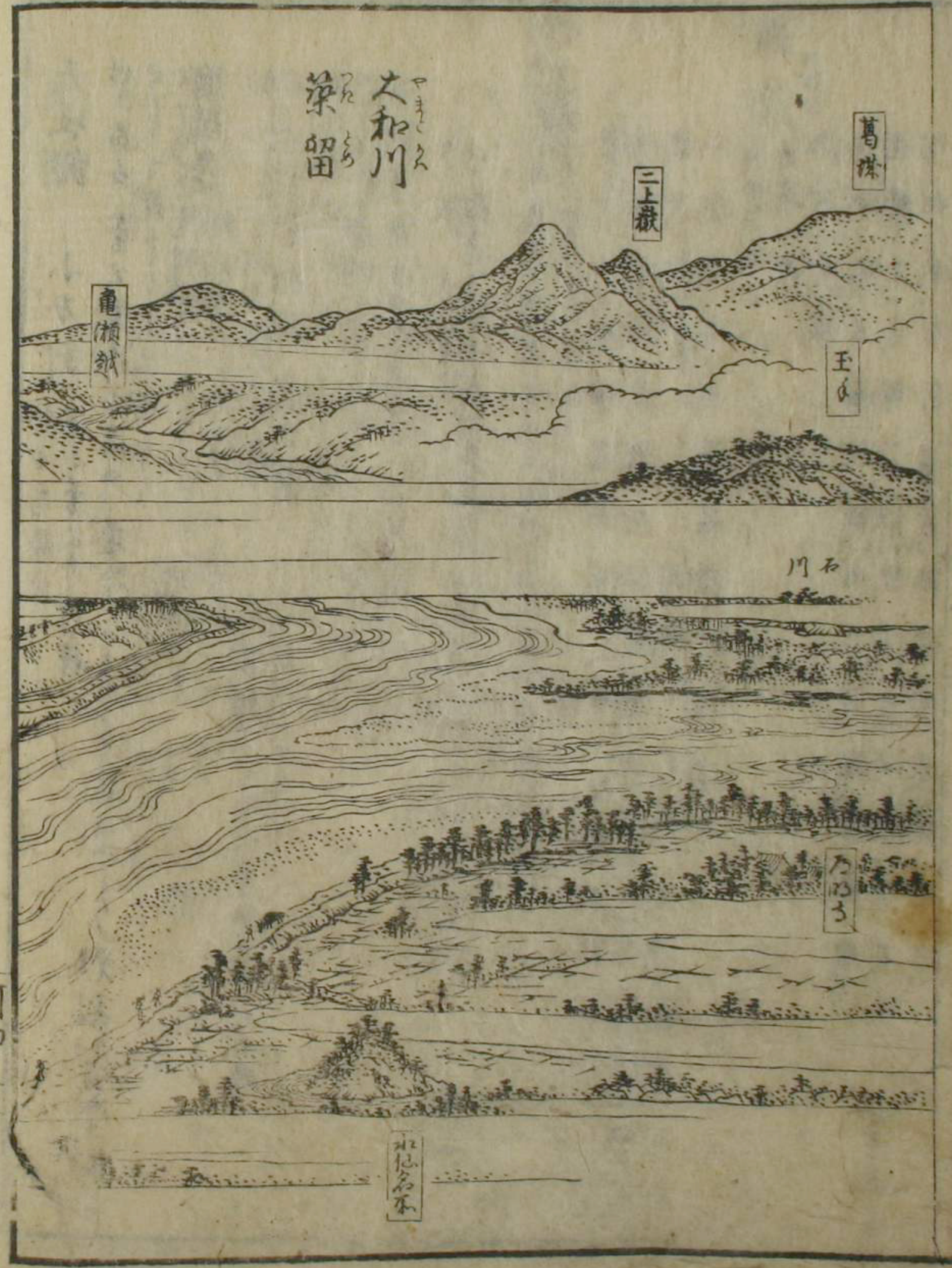
國府 村の 無題詩  
河州 底事 屬 相 歡 為 是 詩 朋 會 遇 難  
酒酌 十分 鐘 下 醉 歌 傳 五 袴 境 中 寬  
侘 秋 暮 行 衣 薄 旅 館 曉 來 落 月 寒

大江佐國





倭水雁落  
 秋風平野少人烟  
 一水西奔日本川  
 垂晚鴈鳴欲散  
 帛書知向上林傳



大和川  
 染留

可四ノ十



華洛欲歸君勿駐每思堂上波關干

志貴縣主神社 今春日神也

總社 惣社村あり傳云 古昔國府必建社 有事于國內 師神祇 國司率僚屬先修曲禮於此 其儀 京

市邊皇子墓 村あり墓味小荒家 二村の管内あり 市邊皇子を 履中天皇第一皇子なり 母を聖妃黑媛

孝女衣縫氏墓 乙子家傳云 衣縫氏を衣縫造の女志紀郡人なり 兼 十二歳に父を失ひ泣血成長の人小過り 服闋母を奉養 母を養ふに父を失ひ泣血成長の人小過り 服闋母を奉養 母を養ふに父を失ひ泣血成長の人小過り 服闋母を奉養

黒田神社 北條村あり延喜式不出 今天神と稱れ 比地の生土神

志疑神社 比地の生土神

伴林氏神社 比地の生土神 貞觀九年 伴林氏を 名産水仙花 霜雪をうけける 同く比地 他境をうけける 早

名産水仙花 霜雪をうけける 同く比地 他境をうけける 早

名産小山園扇 比地の生土神

三好城址 小山律堂二村の間にあり 上小神祠在り 元龜年中 三好康重

新大和川 比地の生土神

藥留 比地の生土神

柏原清水 比地の生土神

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



因之延室のくろく先治の眞室老人金剛のくろく治せられし時は柏原村  
 浮久が亭ふま勢衆ふら物まきく物治りゆりてあるト慶白と  
 をれしふは地々何きの郡を同りる王志紀郡也書乃れく  
 夏川の漢と郡せん志さぬり那  
 又眞室老人の夢伝く不遺を一軸あり其書云  
 花徳丁松田家少く  
 云吉法印  
 貞室

皆人乃豆蔴のそひや種衣月

柏原村傳久のゆいふ高をゆりし一平  
 是老が作を虎手ゆり記して上や  
 燕を有しゆりも徳子れい先名降ま  
 述化を書付ゆりあふりこ何とこり

は三田氏傳久と延室七年河内名所記り人書伝多りりれ小村  
 李吟翁の序あり又白集ゆりれとまを  
 明子のや葉毎まゝ病も本穂子  
 一養軒貞室  
 津久

樂書の何と瓜栗人そめりり

名産本中乾瓢 本中村ふれと製成又沼村の南此と永亨寛正日録曰  
 慈照院相國さき瓜根朝不進じ上品とれ其狀腹大ありく  
 熟されを色赤く肉軟く通明寺根杏太田燕ふかひりりりの名産く  
 又棉布の本中村より出ると幅さるふりて漏り  
 家原慶寺 老原村ふあり天平勝寶八年二月 帝うふみゆれしりり幸  
 續日本紀延喜主統式云文殊會觀二十宗瓜賜人

雄畧天皇陵



忠臣集人墓





葛井寺  
よつか寺

原紙や  
藤の之喜此  
心くさず  
俗花紅



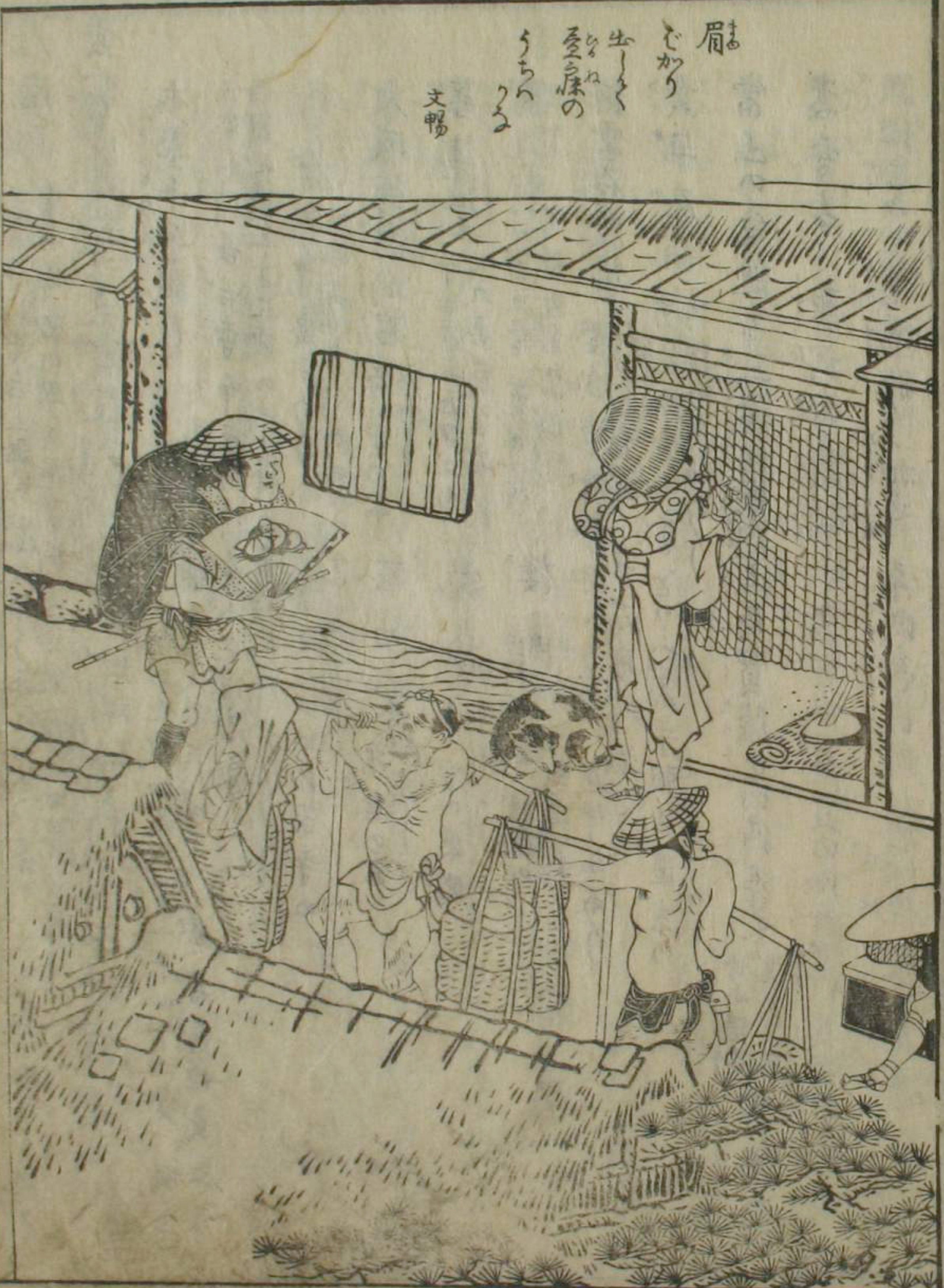


名造  
小山園

ごまてまや  
五粒組云  
文明以系  
核庭さ  
多く園  
と用ゆ  
和訓義解云  
うちへと  
わんが  
らづくの  
略さず



肩  
むかり  
出さく  
豆ねの  
うちん  
つよ  
文暢





丹南郡 東ハ石川古市二郡の界に隔るゝ西ハ土及泉別々なる那の界を限る  
紫雲山葛井寺三寶院 葛井寺村にあり一ノ名剛琳寺真言宗

本尊千手観音 舊文會舊主勲の化長四尺八寸一十四十二臂 脇士  
西國巡禮三十三所の中身五番の札所あり

葛井 野中素子あり今藤原素子といはれ地當寺の  
不動堂 辛堂の西

大威徳影向石 辛堂の西

菩薩堂 辛堂の西側あり 鐘樓 辛堂の東側

鎮守 牛頭天王 荒神祠 樓門 持國 増長の

紫雲石燈燭 聖武帝清宗附入方丈の庭中あり

業平屋舗 方丈成安の庭とり業平朝臣造之の  
當山の寺記と二條西殿内大臣實隆公の清宗之

叡寺と 聖武帝歳願ふより建之の伽藍行基菩薩院  
其記あり

服供養の林場あり加之 平城帝の沖願阿保親王再造の精舎

大威徳天王影向不斷の靈跡金剛金峰両山の肝心之葛本縁起ふ云

葛井寺と葛本の西門之云云本寺の舊文會舊主勲の聖作

千手千眼親世菩薩清夜本和列長谷寺大悲の同本妙相

瑞巖より之感應無雙を尊像三十三所巡禮の地諸佛持法輪

利生の砌あり茲不明應二矣夏一國の乱あり兵火小罹く

樓門中門三重大塔鎮守業平朝臣造之の奥院等焼亡し

畢ぬ然りやといふも辛堂寶塔巍然ありてこれあり仍く

衆僧の願を諸檀那力弘勸せき舊基に歸れ又永正七年八月

八日曉大地震一寺滅亡本寺無恙茶蹤未聞希代の神變あり

一割伽藍の退捨を衆生振化の方便之誠小歎の中此歡之伏而願を

人々宜伽藍再營の志孤勵し一紙半錢の少財と恥れ祈願解

好く慈心を運ぶ身一丈以千手観音と四八端巖中心慈容

三千正覺の導師あり一見一禮者永離三惡趣速小二世の願あり



後一むべき者なり仍寺記如件

永正七年十一月日

葛井寺什寶

後醍醐天皇繪旨 二通

同和歌三首

松虫之鈴 真如法親王持物

楠正成菊水旗 一流

楠正儀壁書 一通

佐久間壁書 一通

高越後守奉書

阿弥陀佛立像

惠心作

地蔵尊 正觀音

佛舍利

聖武帝行寄附

不動尊 立像

大般若經全部

十六善神

行基作

寶頭 盧尊者

大般若經全部

寺中伽藍 古圖

土佐將監筆

葛井寺戰場

正平二年八月十六日楠正行精兵三百騎とて北軍を破る

楠帶刀正行と父正成が先年淺川へ下つて討思ふ振あれり今度の

合戦不我ち必討死せり一海の河内へ帰る君の如く何れも成せ給んぞ

浄者様を見果なれと申合めり一其意訓成意を以て十餘年我身

の長松侍り討死せり一即從共の子孫と扶持して何れも一て父の款瓜

減一君の浄懐を体めなれんや也の善肺肝を若くめてせよひる光陰小

可四ノ十七

關守り一兼捷く正行既小廿五才今年一秋父が十三年の遠き小

當り一四を供佛絶俗の他吾心の如くして今も令懐ももるるなり

其勢五百餘騎瓜率して時々住吉天王寺を討出々中流の舟を以て

燒拂く京勢や衰ると侍りつる將軍これを圖移して楠が勢を

分察ぬるよれさす我あは先是も急境を侵し棄れり洛中驚死絶く

幸天下の嘯喙武將の軀辱へ急死馳向く還活せよやと細川隆興が

公大將として宇都宮三河入道佐々本六角判官長友勝つ松田洛西左馬

未松信濃吉範資令身統率も範貞村田宗良勝坂西坂東常守の

一族共不始合三子符騎河内國へ下つて侍り八月十四日不始合寺

あせり着つる乃侍此陣より楠が館へ七里隔るれを能令急志も不始

とも明日の明日の同子我害んぞらん一系勢由断して或る物具は

解く休息一或る馬鞍を下して休る所不譽田八幡宮の後形も山陰も

水の旗一流月の見へり甲の兵七百餘騎困々や馬が歩ませり



ころスハヤ款の案つゝ馬小鞍とけ物具せよと云しめれさめく所へ云け  
 真希子進々喫て意入之將細川隆奥も獲とを肩小垂れども未上軍  
 とも得をた刀派等とさ際もかく身へる同村田の一族六騎小具足計  
 けと誰が馬とも形くヒ多く中打騎て如雲處群と拍る款の中へ意入  
 大に敷しそ我々ゆるるれども續く味方形を大勢の中へ被取落村田の  
 一族六騎と一所を討れおろ其間小大將も物具堅め馬小折棄とお叱り  
 兵百餘騎暫支く我々り款を小勢之味方と大勢之縦進之意合ふまで  
 ねく引退く兵も不毎りせば系勢弱く負傷ト多付と諸國の駐武者亦  
 支て我を後と捨散おて引る楠智勝も棄て退意一と大將三も渡力  
 少く危身之たれを六角利友令身六郎在備門返一合と討れおろ赤松  
 能資令身能貞令公名不換と討死せんと取て返一七八夜を踏止く我  
 方小原良時栗生田も討れおろけ等も支りねく款をめぐ遊ごりたれを  
 大將も士卒も危令派助て皆系へぞ帰上よりはな付

河内十八

長野神社 登延喜式出尊并寺の側あり

釋慶俊 傳云葛井寺の人

慶俊の姓と藤原氏少く河内國の人あり道慈法師不率て三論宗派

少く彼地不移く第一世の祖といふれば 光仁帝神宇天應元年小

あつて僧都やふれり其性慈悲の慈ゆく貧者病者不施り

幸瓜好めり 神社考曰慶俊建立也

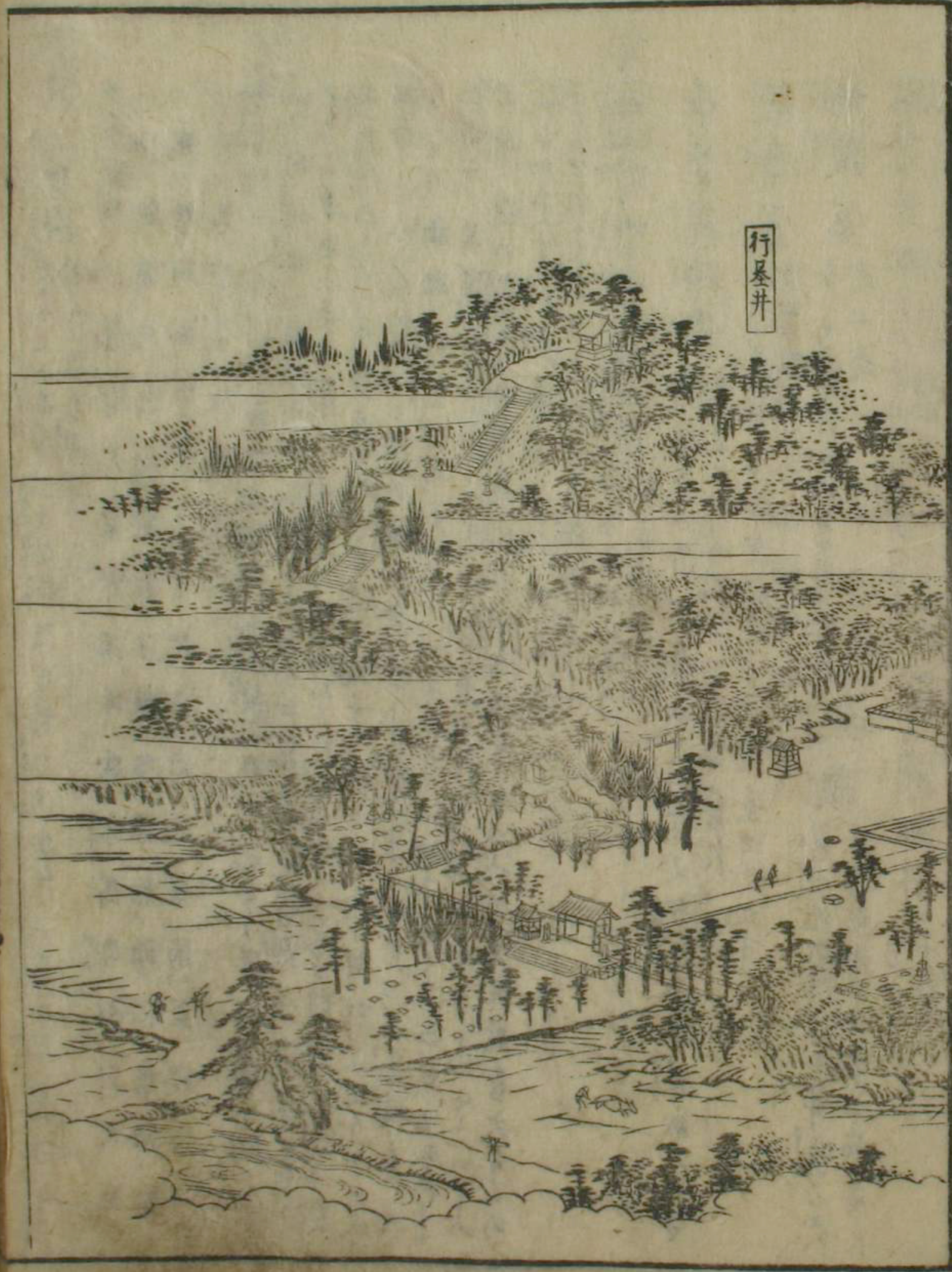
満願寺 聖徳太子所建管の地あり

本尊藥師佛 産像を尺貳寸又十二面觀音立像を尺八寸 鎮守牛頭天王

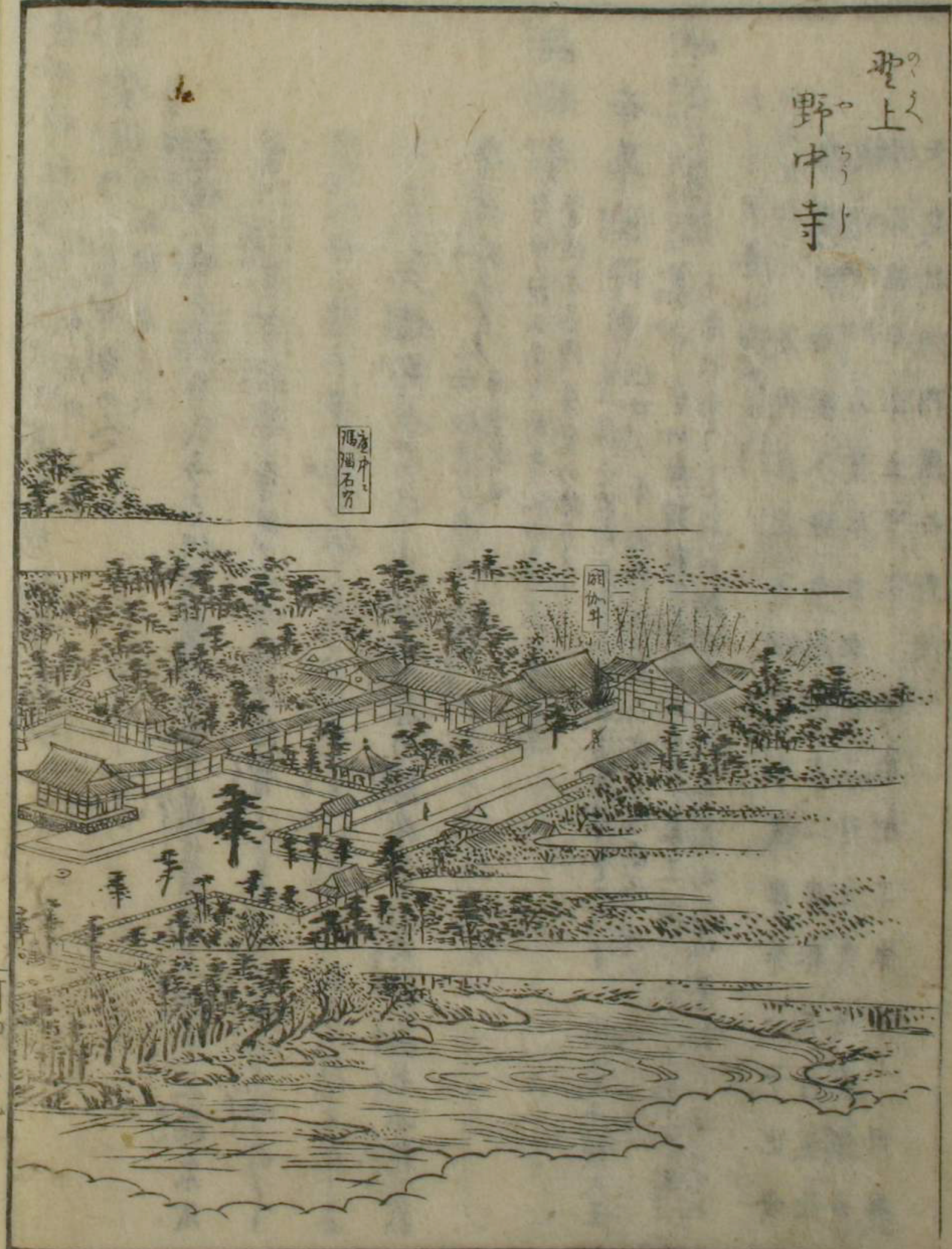
仲哀天皇陵 葛井寺の南園村の管内あり 孝王廟陵記云神始那

日本紀曰 足仲彦天皇 哀仲日本武尊弟二子也 母  
 皇 后 曰 兩道入姫 命 同 御 宇 二 年 春 正 月 氣 長  
 足 姫 皇 神 功 為 皇 后 九 年 春 二 月 天 皇 忽 有 瘡 身  
 明 印 崩 時 年 五 十 二 年 神 功 紀 二 年 十 一 月 葬  
 天 皇 於 河 内 國 長 野 陵





行基井



野中寺

野中寺

野中寺







羽曳山 又稱野山 山脈神郡世山よりはぐさく丘山なり 石川吉布の  
 連匠 一 高野の郡の中平尾丘 丹比の丘  
 壙生坂のみ  
 延喜式小志紀郡小載又岡村ふあり 今 延喜時と移凡社の小に幸國の

幸國神社 延喜式小志紀郡小載又岡村ふあり 今 延喜時と移凡社の小に幸國の  
 池あり 三代實錄云貞觀九年二月預官社

大津神社三座 鉞鞞延喜式出丹下の宮村ふあり  
 今大宮と移凡社の生土神

標本神社 鉞鞞延喜式出真福寺村ふあり 今八幡と移凡社の生土神と凡  
 社頭の傍を標本と云又真福寺と云又寺あり

丹比野 延喜式出丹下の宮村ふあり  
 古事紀曰 多遲比怒迹泥牟登斯理勢婆。多都基母  
 基母 知豆許麻志母能泥牟登斯理勢婆

丹比神社 鉞鞞延喜式出丹比并村の函ふあり 今 延喜時と移凡社の生土神と凡  
 社頭の傍を標本と云又真福寺と云又寺あり  
 十二月授從五位下嘉祥三年十月授從五位上又  
 三代實錄云貞觀元年七月遣使於諸社奉神寶幣帛  
 丹墀真人繩主  
 為丹墀社使

菅生神社 延喜式曰大月次新嘗三代實錄云貞觀元年九月  
 授從五位上菅生村ふあり 祭神天穗日命なり  
 今 天後天神と移凡社の生土神と凡社頭の傍を標本と云又真福寺と云又寺あり  
 六月十五日秋祭八月十一日火燒十一月十五日近郷八ヶ村  
 奉居神と凡宮寺弘金剛院と  
 考して古言律俗を守ふ

菅生天神

延喜式曰大月次新嘗三代實錄云貞觀元年九月  
 授從五位上菅生村ふあり 祭神天穗日命なり  
 今 天後天神と移凡社の生土神と凡社頭の傍を標本と云又真福寺と云又寺あり  
 六月十五日秋祭八月十一日火燒十一月十五日近郷八ヶ村  
 奉居神と凡宮寺弘金剛院と  
 考して古言律俗を守ふ





荒陵

黒山村の北あり、家塚墓山也、周百五十回池を造り、  
一説あり、天武天皇陵大和郡葛城郡檜隈より、  
一説あり、天武天皇陵大和郡葛城郡檜隈より、

河内洞古跡

河内洞古跡、大保村あり、むすび、  
洞子丸也、或る洞、神と稱し、  
洞子丸也、或る洞、神と稱し、

日高臺古蹟

日高臺古蹟、日置莊、  
日高臺古蹟、日置莊、

日本紀曰、垂仁天皇三十九年十月五日、  
於茅渟菟砥川、  
川上、部亦名曰、  
敷命、伴主、石上、  
の叙を共小十箇の品、  
箇のを人、  
夢徳稻荷祠、  
田郷、

油

油、  
油、

大野

大野、  
大野、

狭山神社

狭山神社、  
狭山神社、

狭山堤神社

狭山堤神社、  
狭山堤神社、

名産蓴菜

名産蓴菜、  
名産蓴菜、

東餘下川

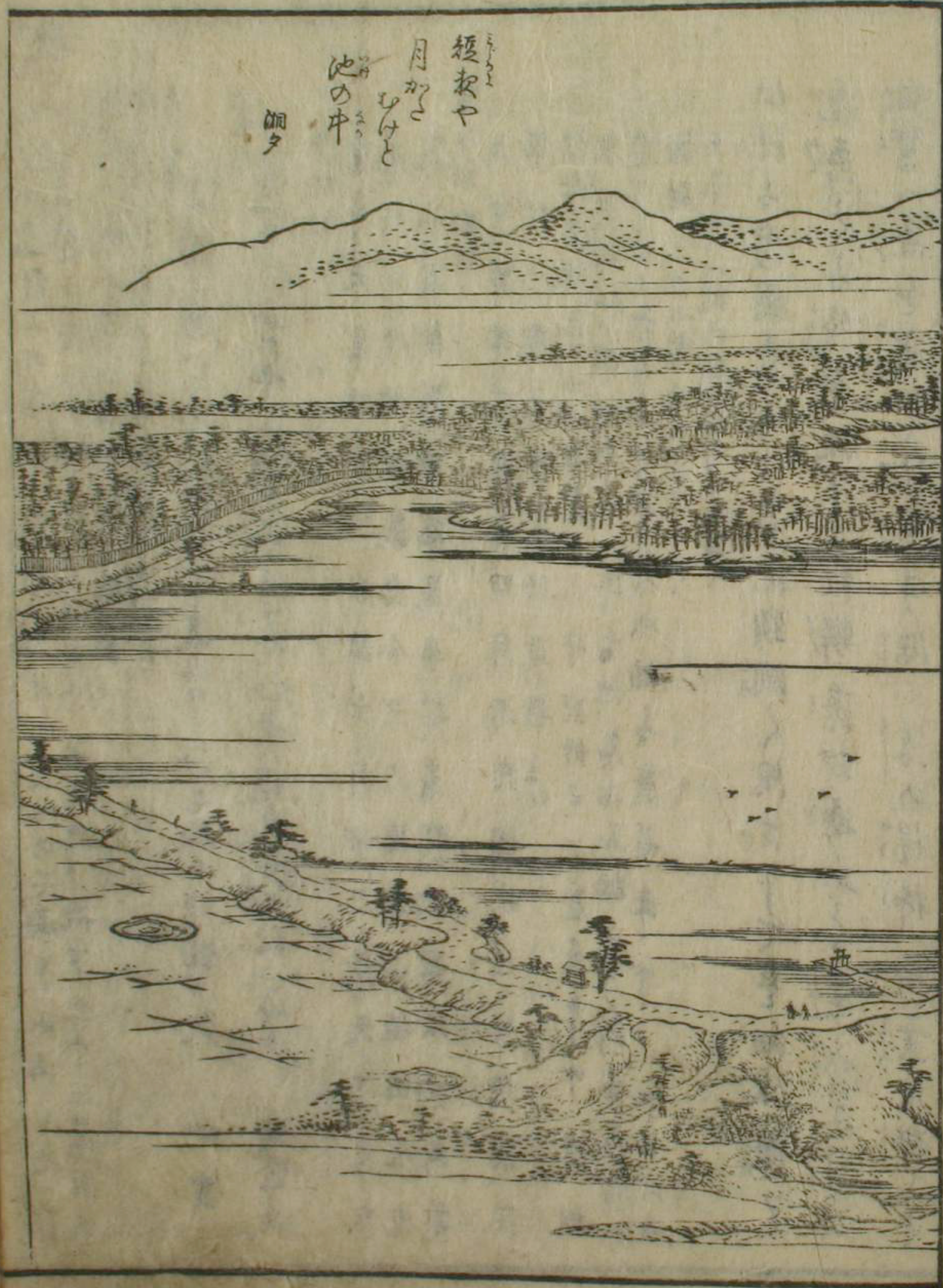
東餘下川、  
東餘下川、

西餘下川

西餘下川、  
西餘下川、

蓴菜、  
蓴菜、







狭山池

狭山池村あり 狹山郡 天正 小山田の二溪より流るる池と多  
田園あり 狹山村新開の郷民  
は池を守りて 狹山郡と名づく

六帖

多きては中一の池乃みりて是を絶てかたや社とゆふ 倭書云

日本紀曰

崇神天皇六十二年秋七月詔曰 農天下之大  
本也 民特所以生也 今河内國狹山植田水  
是以其國百姓怠農事 其多開池溝以寬民業

續日本紀曰

天平寶字六年夏四月河内國狹山池堤決以  
單功八萬三千人修造畢云云  
後世永祿年中安見兵作守重修之又度長年中行相  
東市正修補加也 或云池底石植あり 行春善善の  
造りて 先のよとせ 又八植を度長年中 小和田之  
傍尉をり者修りて

天下尺八植の跡ありとせ

は池を改國号ありて池頭濁く風生トて雲細浪漲る

花落くとを流し紅鱗薄氷逆ふと春あふ遊ふ  
白鷺の魚を窺く池色を深と岸の楊柳菴葉波拂ふ

河内

郡北丹

漢の武帝元狩三年小坂一先の石鯨を作りて  
昆明池を比せむや

丹北郡

丹北郡 丹北の北に在り 又丹南に在り 東に志紀郡の界あり

雄略天皇陵

周廻百餘間 丹北高鷲郡陵也 号は字丸山陵 亦池あり

帝陵記曰 陵所今河内國丹北高鷲村あり 丹北高鷲郡と名づく

日本紀曰 大泊頓幼武天皇也 号は冠蓋 帝 号は立皇子 たり

忠臣隼人墓

日本紀云 清寧帝元年十月 雄略天皇と

高鷲原に葬る日あり 隼人陵の側 不晝夜 衰 葬て食 瓜

禮をそむくことあり 死を 郁司墓 依陵の北に造る

阿保親王故蹟

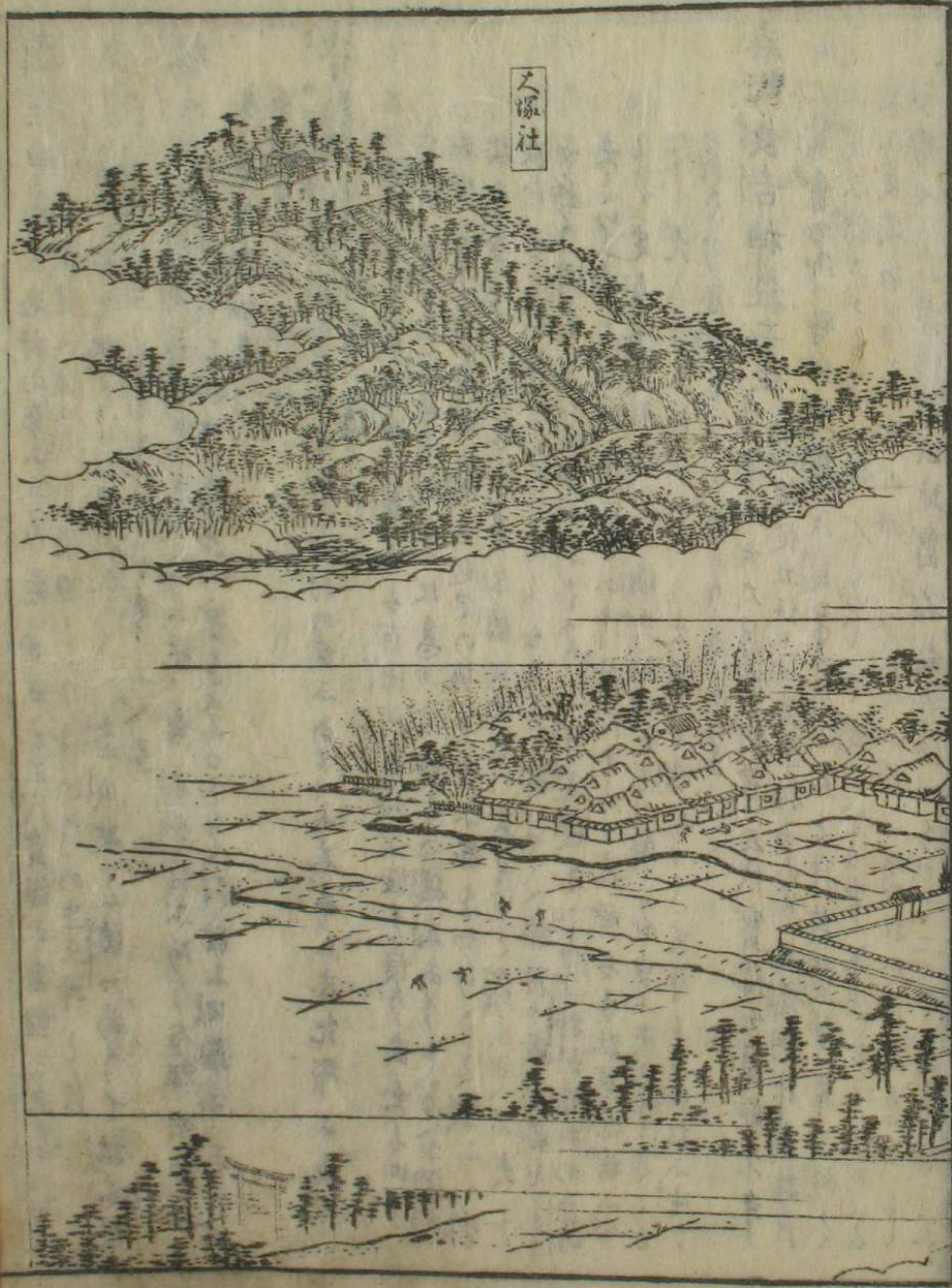
今東阿保系阿保阿保系 在りて 三村あり 此地に 殿

打出村の上あり 阿保親王の 平城天皇の皇子あり 在 原









大塚社



天宮宮跡

菊咲く  
其いみじの  
白ひけ  
塚甲

天宮宮

河内ノ二十六



酒屋神社 三宅村の南あり延喜式出三代實錄云貞觀七年十二月

氏破波口 志紀郡より流れる物々川に氏破を渡りありて橋本村

樟本神社 登載延喜式志紀郡小載南本村あり布都明神也

守屋城址 南本村北本村あり同ふあり小本村の志紀郡小属凡

志紀長吉神社二座 延喜式云大月並新嘗三代實錄云貞觀元年

大嘗會の時時日藤原長元なる故に名とれ其蔓神庫小村

上皇小孫なるより神人と之ども慢は慢る事成得也又社前

家小長久永義年中の神祇宮前長吉後世分つて二つあり

相違ふ古老傳云此地舊名長吉後世分つて二つあり

志紀長吉神社二座 延喜式云大月並新嘗三代實錄云貞觀元年

大嘗會の時時日藤原長元なる故に名とれ其蔓神庫小村

上皇小孫なるより神人と之ども慢は慢る事成得也又社前

家小長久永義年中の神祇宮前長吉後世分つて二つあり

相違ふ古老傳云此地舊名長吉後世分つて二つあり

中臣須牟地神社 住道村あり日本紀云雄略天皇十四年正月吳

國使泊於住吉津是月為吳客道通磯齒津路

萬葉集曰住吉爾住道爾昨日見之戀忌事二

阿麻美許曾神社 登載延喜式出南本村の南の方天見丘あり土

本居神あり其地小行奉士

布忍莊 土人布瀬とありむは地小加蓋ありみか類廢小あり其

古佛更池村の多門院小毘沙門天向井村小布忍山永興寺ありて

布忍川 水源更池山池より流るる河下川とあり舟載八上の郡界

夕立子大おおれを布忍川に載り幅もあつれを 津久

夕立子大おおれを布忍川に載り幅もあつれを 津久

夕立子大おおれを布忍川に載り幅もあつれを 津久

夕立子大おおれを布忍川に載り幅もあつれを 津久

夕立子大おおれを布忍川に載り幅もあつれを 津久

夕立子大おおれを布忍川に載り幅もあつれを 津久



八上郡 東南を丹南郡の界に限り、西を泉列太志郡の界に限り、南を

丹比行宮 小守村をり、天平神護元年十月、帝和泉國日根郡より

巨勢金岡故居 金岡村小あり、むら、宇多帝神字寛平年中、畫工

金岡神祠 金田村小あり、一説に金田を金岡の誤字なり、東神牛頭天王

又平比堂小茶所、佛長を寸八分、其日、他聖觀者長式尺許、法道

仙人、他佛小觀者坊小安至、凡

登蓮法師絲薄古蹟 同村の絲薄山光照寺に、此の登蓮法師の墓あり、

松井 日村小あり、松温小夏冷なり、

須牟地曾彌神社 延喜式小橋列小出、南花田菴村小あり、今勝子竹林

名産 南花田村小あり、

松井 日村小あり、松温小夏冷なり、

須牟地曾彌神社 延喜式小橋列小出、南花田菴村小あり、今勝子竹林

名産 南花田村小あり、

松井 日村小あり、松温小夏冷なり、

澁川郡 東北を志紀郡の界に限り、西を抄列東生郡の界に限り、南を

澁川神社二座 植松村小あり、延喜式小名に郡小出、今天神と稱す

龍華寺古蹟 日村小あり、訓小稱す

萬葉 檜杵寺の長屋小我あり、

續日本紀云 神護景雲三年 天皇由義宮小行幸、假小肆、

龍華寺以西の川上小建、河内の市人を、

は古跡と今市場せり、又、

土人橋在せり、橋高ハ若ハ郡東弓削の内、

萬葉 せらふか、

蘇那神社 龜井の属村跡部小あり、延喜式出

真觀寺 龜井村小あり、禪宗系所、南福寺、今地院の末寺なり

本尊十一面觀音 惠心傍那の他長三尺、南寺ハ永亨年中、尾語

尾列大守道端大居士 畠山滿家の建立なり、法輝、公真觀院殿三品

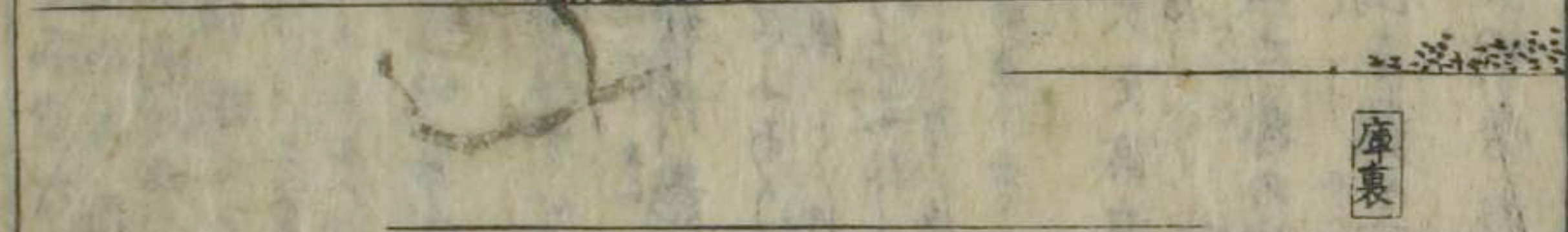
永亨五年九月十日、卒、畠山滿家墳あり

龜井 今洞水、

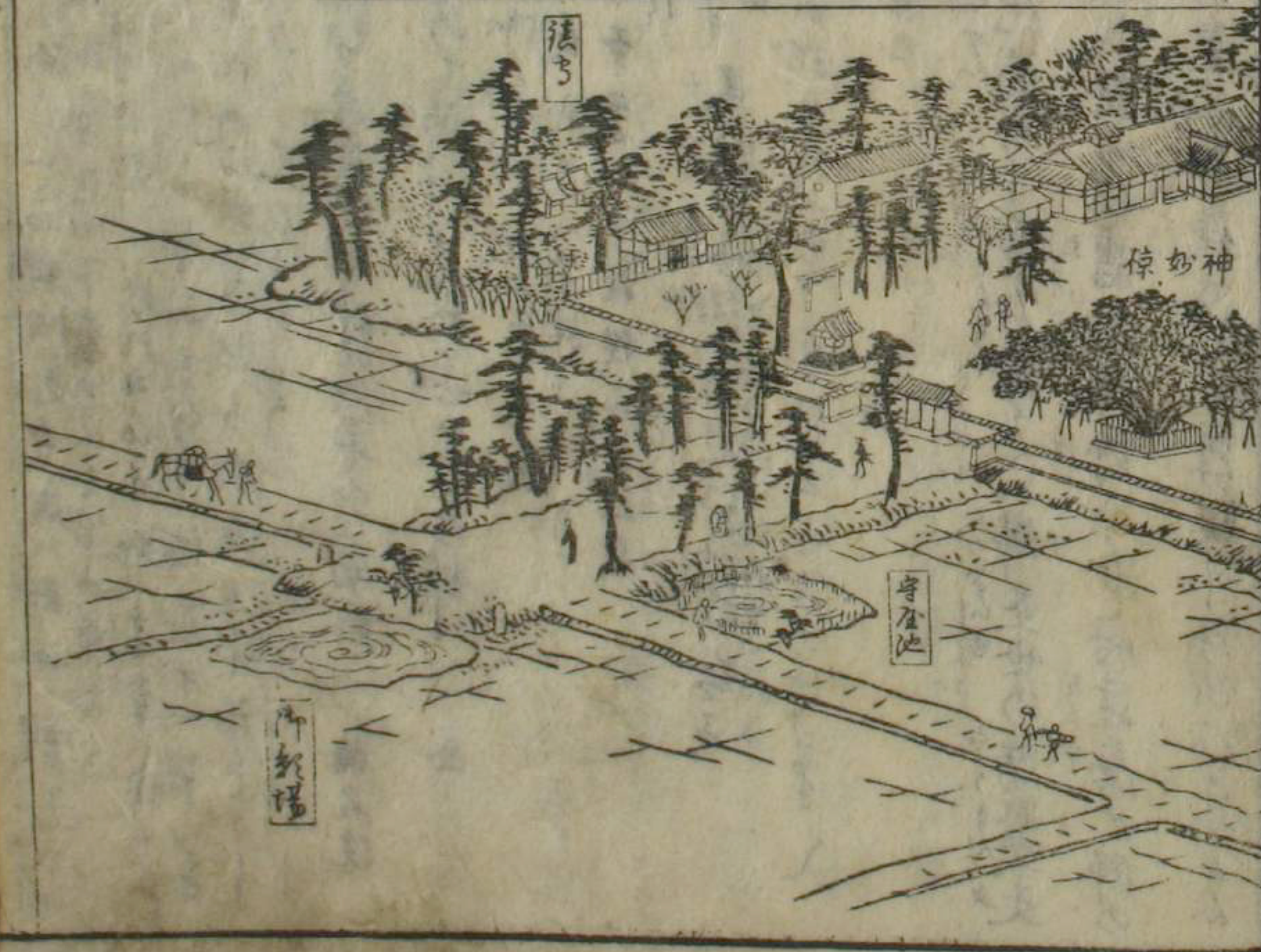




森井直観寺



庫裏



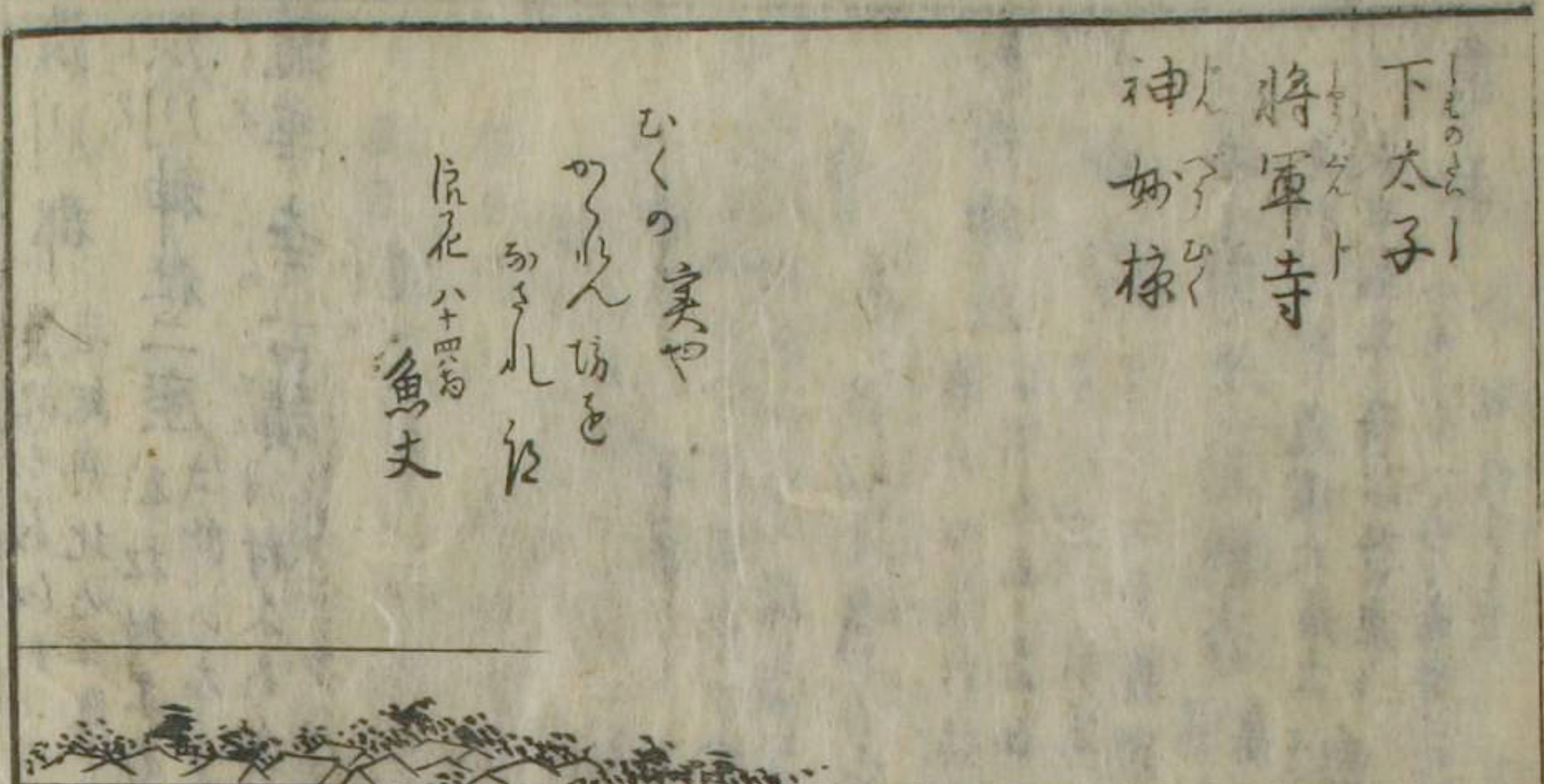
法寺

倭妙神

寺名池

所新場

河内



下太子

將軍寺

神如椽

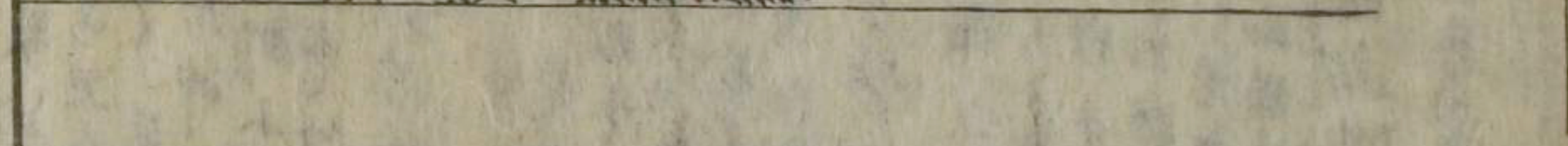
むくのまや

のりん坊を

あさり

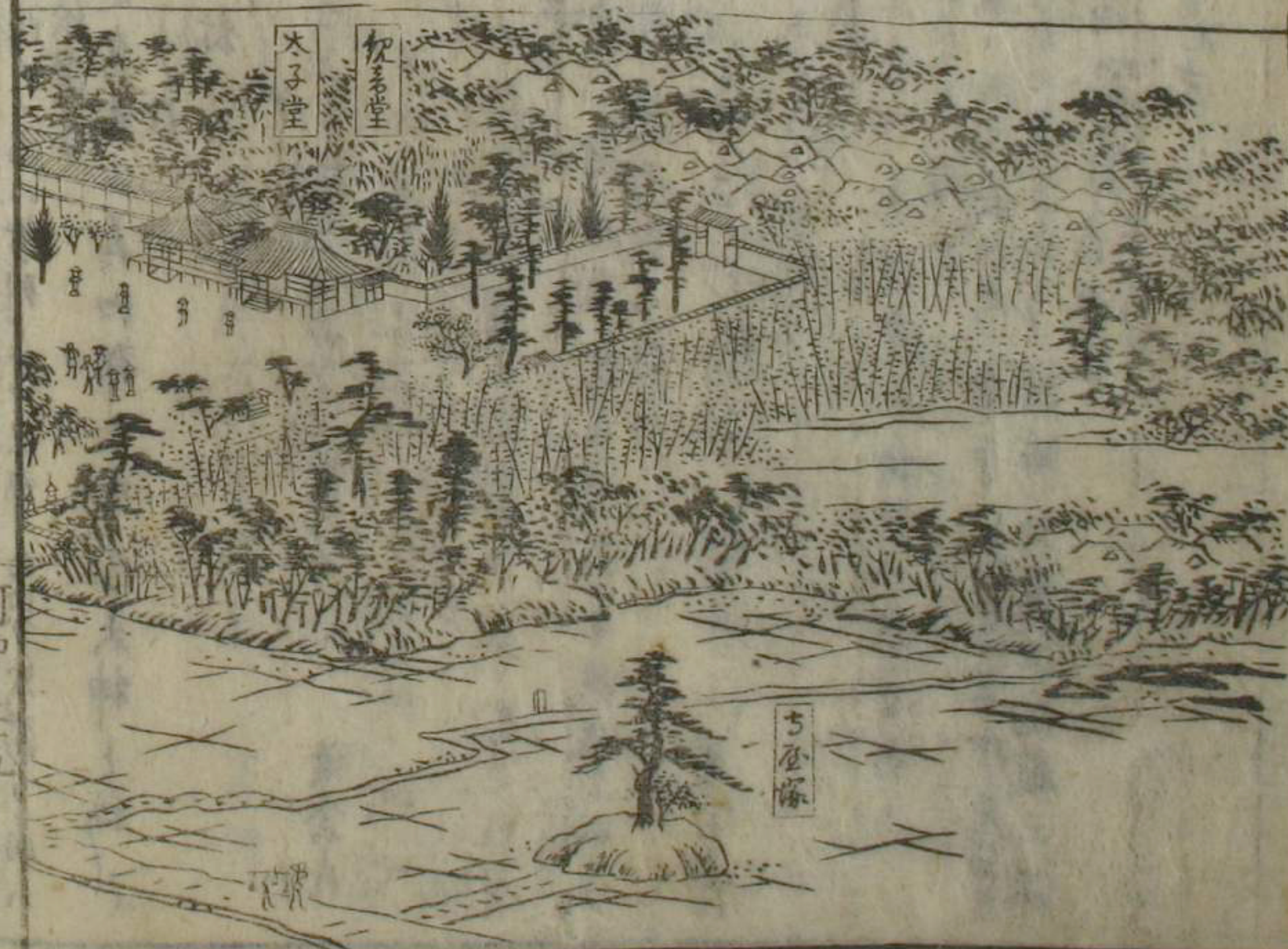
信花 八十四

魚丈



太子堂

観音堂



古庭

河内 二十九



掠樹山大聖勝軍寺 を子堂村あり一名觀成社寺或ハ野中寺と云

右大兄實際公天文の基此頃觀成社を先ハ移れぬハ吉野高野へ備へし道の死云 神妙樹の本の阿る寺ふまらり彼本を本を

かぐと本をまらりをる此中觀成社を先ハ移れぬハ吉野高野へ備へし  
編名院

本寺聖德太子植髮淨影 淨自作十六葉の寺觀

觀音堂 を子寺の左あり本寺如名瑞觀言長三尺

神妙株 堂前あり本寺に在馬蹄石軍馬の蹄の石觀成社

額 植髮を子大聖勝軍寺の額ニあり寺傍を子の淨子

鎮守 縮為 每財天 天満宮の

夫上宮太子の救世大悲の化現して天竺あり佛在世の勝鬘支

人宸且あり衡山小敷生瓜經の惠思禪降りし時達磨大師の

教ふより日域 用明帝の皇子聖德太子也降誕し給ひ二葉を

淨時初言小南無佛也稱よひし諸惡莫作衆善弘行の教を

修練しや淨文帝登極の後を子の奏ふより天皇厚く三寶を

貴敬し給ふより小近臣物部弓削大連守屋曰抑我國を天日嗣を

皇孫神代より傳りて天竺宸且あり也給ふれ玄妙なる神國也衆

人代小逮人でも神武帝より都より二十三百年異邦の佛法未

傳りて也よしも天下清平ありて叛賊あり今西塞を佛法

尊と堂塔伽藍を建く貢税の地を費し佛像小財寶を散り

や小率國家の災害遠く小ありはくも中江勝海孤のこらハ佛國

佛像を燒拂ひ當國汝川郡阿都の宅へ引退し稻村城を築き

數十萬の軍勢を従く三神小築城し其時を子十六葉あり

甲曹汝等し官軍を引率して秋城小向く干戈を形し軍率

と指麾し給ふ給ふを子小勢をれを隊伍破る兵士逃趨る

兵競ひ逐ふ率既小危急あり聖濟し小盡く万死一生小れよ



太子遁れんとす。其地かゝる。ふじりより大木の椽あり  
 其本陰小立雲路の嘆ト曰我小救世の本影ありゆふ今送  
 居守屋を爲す。侵されんと預ひは意難く救ふ。守屋に空宮あり  
 不可思議ある哉。樹多小椽の中。開裂を太子大喜び。冲身は中  
 に隠し。其椽封固する。幸れこの如く。款軍馳来り。尋ねる。己に  
 蹤跡一室退く。後椽樹又放開して。太子再び出せむ。安穩に昂  
 け樹小向ひ。歡喜踊躍して。偈を誦して。曰神妙椽樹悲母本。我身出  
 生廣大恩。紹隆佛法。今成就。日日影向不退轉。唱へ則秦川勝と曰  
 白膠本。汝を以て四天王の像と彫刻して。四居藤我大臣 迹見赤橋の頂安  
 小救免我を以て款小勝。ゆゆり護世四天王寺。汝建人と志願。瓜  
 起させ。赤敵城小向ひ。ゆふ迹見赤橋小令。トて。瑞文と射さゆ  
 終ふ。其矢守屋が胸板小中。了る。を槽より。真逆小落ぬ。秦川勝  
 走る。より。頸瓜斬傷の池。水小流ひ。凱歌を上。陣を退れぬ。

是偏小椽樹の功。なれを戦勝本と我歸ら。后則 天皇小奏して。地小  
 伽藍を建。く神妙椽樹山。大聖勝軍寺。中号して。太子十六歳の聖容  
 公自彫刻して。終ひ生身の沛髪を植。させ本をす。ゆふ。已上太子傳當寺の  
 卒業累り。物換を望。うけりて。中頃富士が。乱道く。度長の我小伽藍  
 額廢し。むり。これ十。二おも。及。尺。終れ。も。太子の正蹟。あ。く。世。上。を。太子。多。く  
 沛廟所。沛墓山。中。称して。下太子。守屋退治の戦場。小。して。三。室。弘。隆。を。ん  
 始。佛。款。降。伏。の。回。跡。浮。圖。を。信。を。尙。貴。賤。く。小。消。せ。ば。く。ゆ。半。お。り。

什寶

- 太子御自作四天王。佛舍利
- 大般若經 光明皇后 御筆
- 不動尊 弘法大師 御筆
- 三千佛名經 太子 御筆
- 藥師佛 惠心 御筆
- 如意輪觀音 百濟國 傳米
- 經一卷 右同筆
- 持國天 秦川勝 作
- 毘沙門天 藤我大臣 作
- 當山縁起 筆
- 十面觀音 巨勢金剛 筆
- 守屋大連墳 勝軍寺南門前の 龍あり
- 守屋頸濯池 勝軍寺南門前 あり





久宝寺村  
 佛堂  
 顯證寺



蓮如松

會月亭

河内



近松山頭證寺

久宝寺村あり浄土真宗門徒久宝寺淨坊也嘗て京師西牟利寺淨門跡連枝代々寺藏しあり

本尊阿彌陀佛

甚日佛降伽長を尺八寸餘間小聖徳太子并小高僧の形に安置す

宗祖親鸞聖人等身直向御影

蓮如上人真筆真向の淨教の初天下有一中柿

蓮如上人植ゆり

合月亭 本れち良如上人好の菓亭

夫當寺と本願寺

第八代蓮如上人の建立しつて息者八男法印

蓮厚上人小附屬

好母石山寺觀世音の化現する幸蓮如傳記小頭

然り宗祖親鸞聖人の淨教

大津近松寺に於て骨肉の眞影を撰りたる宗祖親鸞聖人の淨教を大津近松寺に於て骨肉の眞影を撰りたる

近奉再管み

莊嚴英藤之毎時晨鐘の響りり老若の門徒秘伝

浄土ともつり

今縁年仲故大和川岡敷の地を

麟角堂

其聖像今里人の家存せりとせ

久寶寺城

此村あり畠山の麓下

許麻神社

久宝寺村あり延喜式出今牛頭天皇と稱は此所の生土神あり未社あり財天満宮あり本地佛の茶所堂あり

河内郡許麻村

許麻の里沢をふり杜若君りもあふあやのり

神武天皇

盛開の時花美あり

觀音院

社の傍あり許麻神社の宮寺之真言宗大悲閣とあり

本尊十一面觀音

久寶寺觀音院不安凡聖徳太子沖化立像長尺は寺いあり

伊賀々川

水添明星澤あり流る乾村伊賀々村西足代名成徳て

伊賀々川

伊賀々川は名所の村あり伊賀々清も近の國へのけり

龍眼泉

乾村あり清徹其味にして

龍眼泉

乾村あり清徹其味にして

龍眼泉

乾村あり清徹其味にして

龍眼泉

乾村あり清徹其味にして

龍眼泉

乾村あり清徹其味にして



横野神社 大池村小あり延喜式出今印色宮を移凡

横野堤 横野社頭の生土神と凡 十三年十月葉横野堤云云むり 仁徳天皇

形く人々は郷内他境に勝れ地を修へ 瀬原及ひ井水  
も亦誠 幽るりこれ海の近き證なり 續古今

都留彌神社 足代村小あり延喜式出今三神と移凡地の生土神と凡

若江郡 東の葛安河内二郡の界を隔り西を根列東生那の界を隔り

弓削行宮 東弓削村をり續日本紀曰天平神護元年十月

弓削神社一座 延喜式曰大月次相嘗新嘗三代實録曰貞觀元年

弓削河原 故大和川原弓削村の 東弓削村小あり

都家 都家村小あり由若由義宮小見ゆ又祇園家辨財天家等の荒塚

萬葉 真鉞持弓削河原之埋木之不可顯事等不有君 讀今考凡

都留美島神社 登延喜式出 都塚村都塚の上小あり

八尾木鷲 東弓削の西小八尾木村金剛蓮善寺不動尊也

右大石實際公高野諸紀行云 河内國八尾本の金剛蓮華をせり寺に於てり

明川 八尾本村小あり聖徳太子守屋との軍の時八尾本の川あり

高松重信塚 同村小あり土人高松塚と云ふ 稱名院

由義宮 八尾本村をり一名高都 續日本紀云神護景雲三年

西郷の安宿志紀二郡中田租の半と免除凡又實龜元年

法正月大縣若高安多れ百姓の宅を由義宮小入れて其

價を酬給凡今の別宮都家弓削植松等多く其故社なり

又曰同三月小葛并船津文武生等歌垣を供凡

續日本紀曰 爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

手止賣良爾手止古多智獲比布美奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須

爾詩乃美夜古波與呂豆與乃美夜奈良須



弓削寺址 東弓削八尾本の間ふあり 天平神護元年十月

長瀬川 故大和川の田圃の用水とらん又小舟大坂へ通ふ一名いしへ

集に弓削河原とらんこれなり 志紀郡の界に流れる井田

長瀬堤 長瀬川の支流をいふ今か 天平寶字六年六月長瀬堤

元年秋七月志紀河川の堤に修す其功費三萬餘人又

功に二年七月朝使を遣はす河内國の堤を築く

雨澤益幸成神大和神 廣瀬神 龍田神 小奉幣

同十七年二月右中群 橋朝居三夏及び河内玉の

堤を築く先其長官を 諸神を祀り又の名龍華堤

とらん土人あつむり 小瀬と云ふは名

小瀬り老姑等あつむり 小瀬と云ふは名

玄實僧都 弓削の人にして道濟小瀬に永慶世に

物部尾張 弓削の人にして 欽明帝の時大連とらん

諸神を祀り 弓削の神を祀り 弓削の神を祀り

八尾地蔵寺  
常光寺





八尾市

毎来

七月廿四日ハ

地藏祭ト云ク

遠近召来スル

六道徳化ノ

菩薩多クハ

ノミナラズ

吾道ニ導カ

ルモノト

ナリ

地蔵ノ

岳ニ

猿田彦命

ヲ祀ル

ル



猿田彦の

道

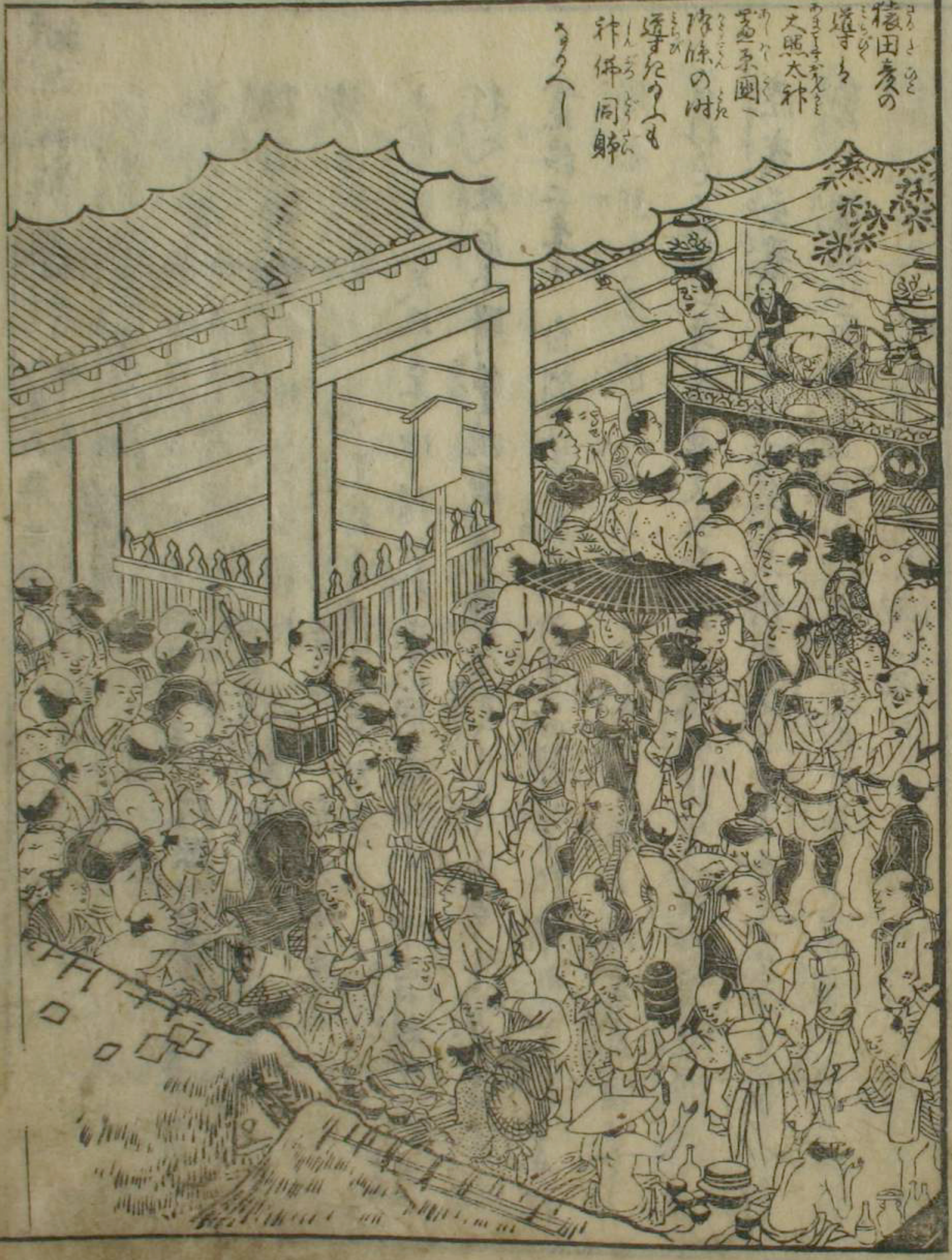
大照太神

為宗園

除條の村

導たりし

神佛同歸





初日山常光寺 八尾西郷邑あり

本尊地藏尊 小野堂の彫

舍利堂 本堂の左ありて白河院の奉阿弥陀堂あり

施魔堂 舍利堂の左ありて聖日佛所の鎮守 金毘羅権現弘

鐘堂 本堂の傍 額 表門初日山 本堂常光寺 俱ふ

夫當寺天平年中僧正行基の岡基あり一千有餘年の靈

刹之殿后小野堂地藏菩薩を刻りてあり不安し平るるに

寛治二年 白河法皇慈野河幸の時より車駕とらぐられ

佛舍利を寄附し終り其より年蒸歷く諸堂荒蕪し

乃れも至徳二年藤原又五郎を交盛純とて者伽藍悉再興し

莊嚴矣藤原より日三年小地藏尊と本堂小安し尚も再

營大檀那藤原盛純中虹梁に彫り顯る舊觀小復る其後

藤原三年將軍足利義滿公指しあり自書の額を賜ひ新

願所小令せし後慶長元年の頃八尾の戰場ありて伽藍

も多し軍馬の蹄小懼る殿堂の丹青室し之を焼光昧し

物れども地藏菩薩の靈驗ありしと今もいちぢくと我見小及

戦死碑 本寺方丈の庭小あり傳云元和元年五月五日藤原堂嘉諸士

元和元年乙卯伐阪我高山公拜正先鋒五

命明日軍道明寺越六日昧爽木村重成長

我部盛親増田宗盛等率兵直向沙灘先

登兵部左近衛等死之既而大陣並左拒

尾振帥右衛門及玄蕃陣亡力闘梅原政

萱振帥新七郎及玄蕃陣亡力闘梅原政

處以若江男龜子宮内塔守力闘梅原政

早戰若江男龜子宮内塔守力闘梅原政

澤田若江男龜子宮内塔守力闘梅原政

平獲宗盛尾盛親狹平野之邊勘進磯野

根安並等陣亡七伯日與毛勝永軍内蔵

及中徑傳最勉晩門黒門連日所獲首八

彌十云是役也二帥常言曰寺公再蒙重

與焉是役也二帥常言曰寺公再蒙重



命為帥不以下死奉我元在諸侯矣嗟行與言符  
 彼社實其力也三室遠孫相謀以建碣屬高文賜  
 日篆額附銀千兩于寺永充歲祀以銘屬高文賜  
 越起武夫同心同德人皆股肱  
 僂倦執職厥將愛君以死當衡  
 首離不僵誠勇且壯宗祀享休  
 軍之善謀中原抵平刻名茲五  
 攝東河西存常光之園  
 萬世永存

實曆十四年歲次甲申夏五

仁右衛門七世孫 勝堂高景 建  
 新七郎五世孫 勝堂良躬  
 玄蕃七世孫 勝堂良演  
 洞津七世孫 勝堂高文  
 彌二兵衛六世孫 勝堂直  
 勘解由七世孫 勝堂氏勝 助工

忠貫日月 義凌秋霜  
 嗚呼勇士 今也則亡  
 津城公錄 傳長老牌陰偈

八尾御堂又信寺 八尾寺内あり津之真宗門院八尾御堂と号し其宗師  
 奉尊阿弥陀佛 聖徳太子御作長三尺五寸許 阿彌小を子七を傳  
 宗祖親鸞聖人御教如上人真筆世小  
 鼓樓 受長年中伏見城よりう小極り  
 成思菴 書院の庵中ありり山別山邊  
 空風爐 教如上人の御好ありて  
 夫耆寺と東本願寺十二代教如上人慶長年中此津建立之ん  
 靈場かり 旦近年御堂再營ありて莊嚴微妙なり當列の門  
 下ろ小指し 他力を頼み小歸入し 法性常樂の境を信し  
 佛恩を報む 爲華指麻のゆし 一衆の冬報恩講小東師より  
 津門主下向の折橋八尾川ありて後白あり

八尾門とわけをさゆる鼓可那  
 栗橋神社 八尾西郷村あり延喜式出三代實福云 貞觀四年  
 授從五位下同日土月朝預官社 今天王と稱を以て依の生土神也

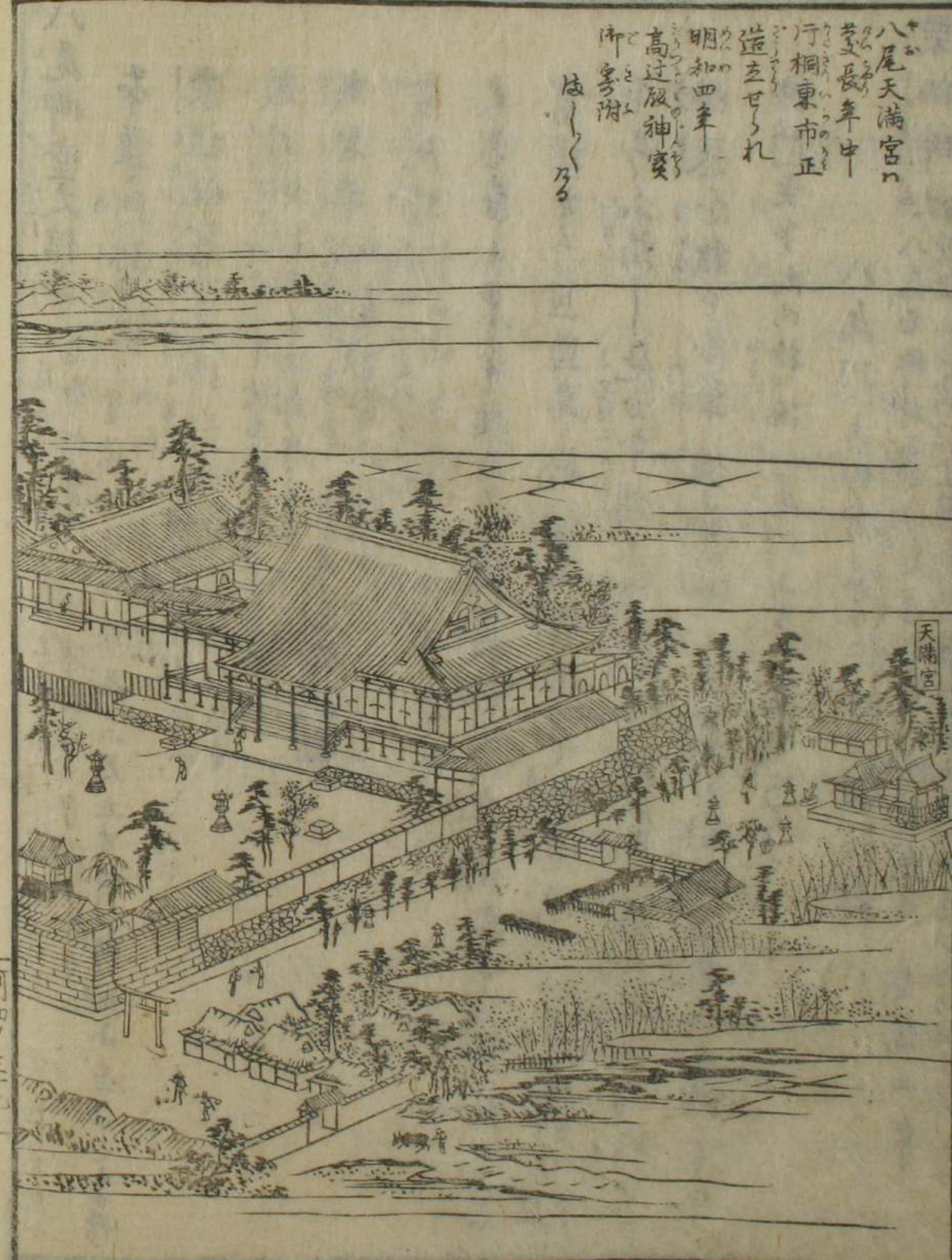
栗橋神社 八尾西郷村あり延喜式出三代實福云 貞觀四年



八尾  
御堂



八尾天満宮  
長年中  
行桐東市正  
造五廿九  
明和四年  
高辻殿神  
所  
はく  
乃

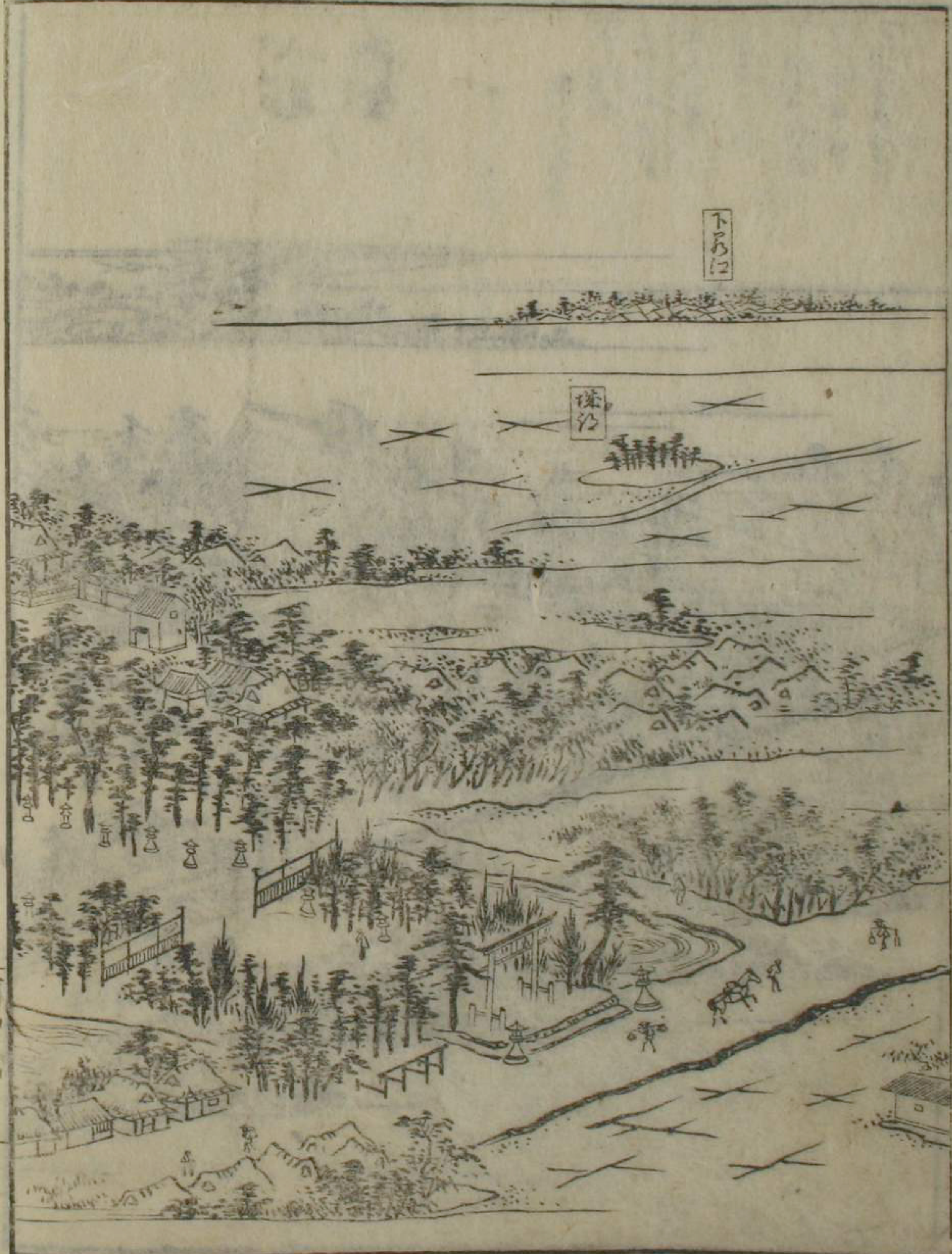




若江  
鏡神社  
雷之  
石形



河田八十四





今古英雄俱寂寞  
断碑零落后人看

山口伊豆彦蹟



若江

佐藤吉右衛門村版

忠臣名賢

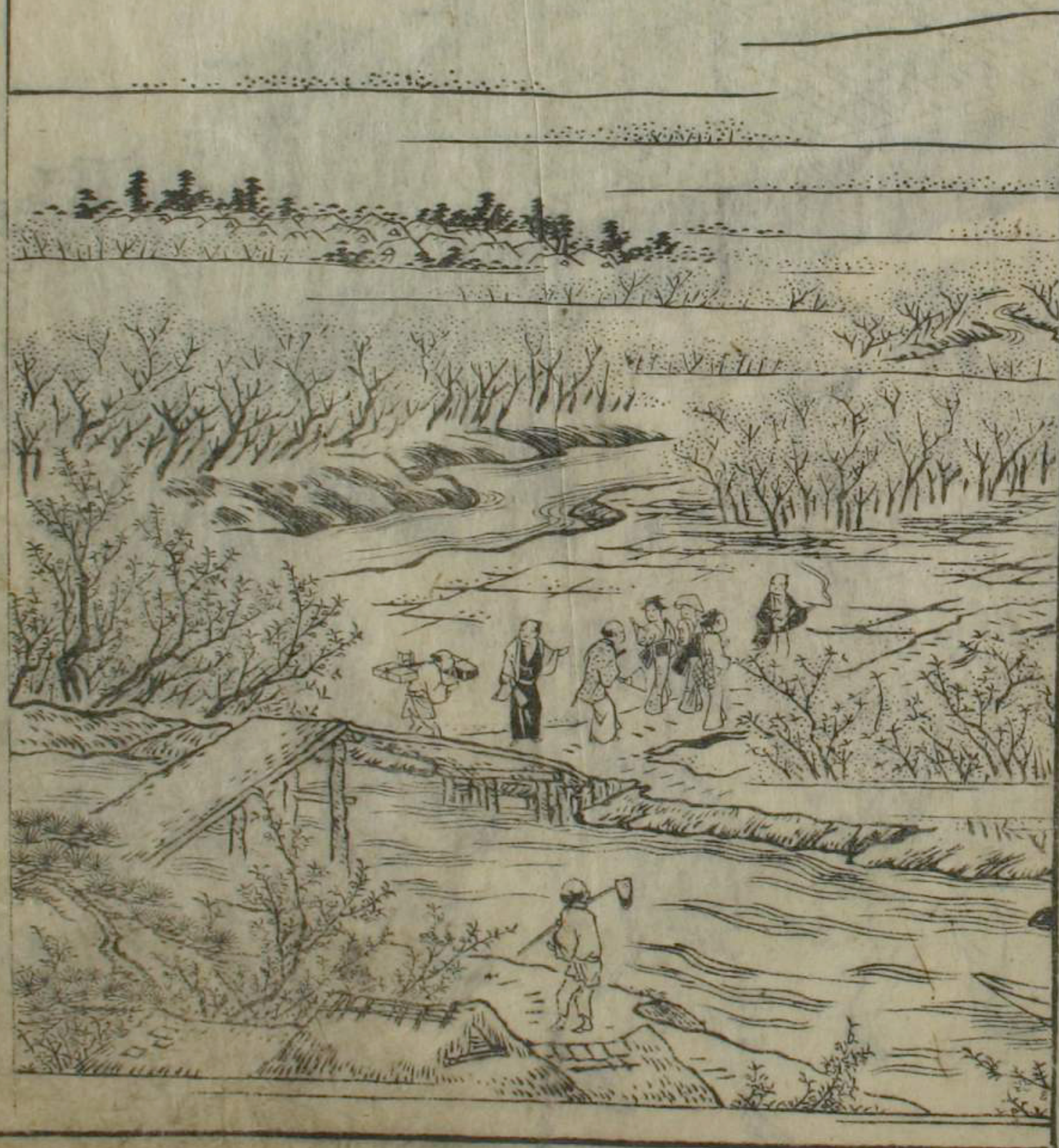
古墳

本村重成墓

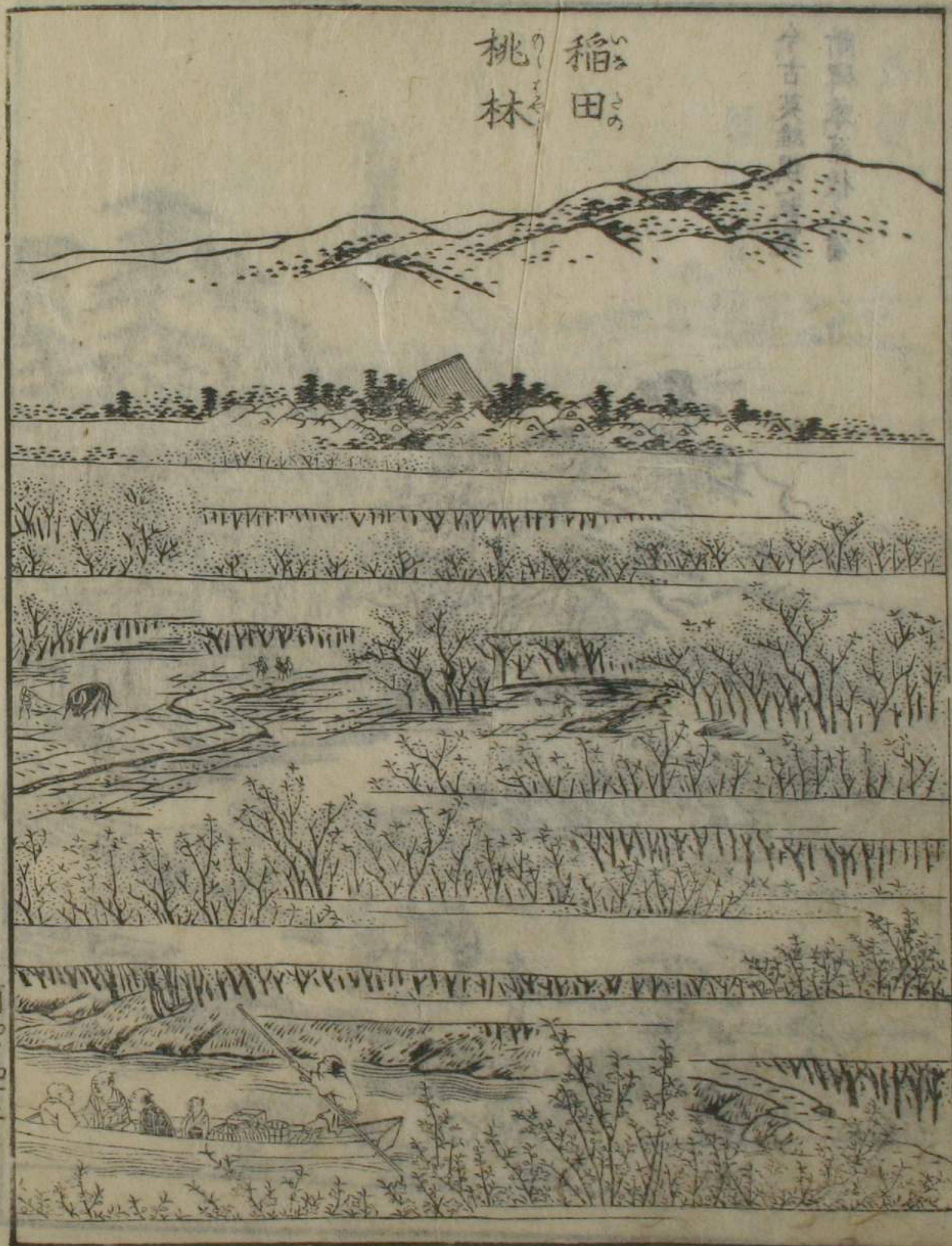




誰家年少  
野村西  
沙岍停舟  
路欲迷  
十里桃林  
花未落  
始知身到  
武陵溪  
生駒山人



稻田  
桃林









菱江  
中村  
神社



高井田  
長榮寺













是則與身一體不毀傷全而歸之者雖以有以資  
 然戰陣有勇則不可謂非孝手古人求忠臣于  
 孝子之門良哉嗚呼哀哉惜哉其雅稱曰傑山  
 宗英居士呼置其小影處於是為銘銘曰  
 書其事于石再三弗措於是為銘銘曰  
 吁浪連城恃險聚兵義旗一麾  
 厥角如崩有一勇士重信為名  
 先登揮戰獲却敵頭取義惟重  
 授命既輕伊人雖沒宛爾如生  
 正保四年丁亥五月六日  
 山口但馬守多多良弘隆建

稲葉里 玉井新田美江の向ふあり

先達 之わかれの里ふかひくさるは契り待を倦ぬれ 光佐

仲村神社 美江村あり延喜式出三代實録云貞觀九年二月禰言社  
 ありとくを迎ふ

鴨高田神社 高田長菜子の孫あり今八幡と稱しては村の生去社なり  
 延喜式出例系九月十六日は寺年久しく廢るやか

寛延年中葛城慈雲社上の建立なり

河内名所圖會卷之四終

河内四十七終

